

第二節 本邦品の需給

我國より當領に輸入さるゝ鈕は、貝鈕、金屬鈕、ナット鈕、水牛鈕、骨鈕、石鈕及硝子鈕であるが、外國製品と競争の立場にあるものはナット鈕、水牛鈕にして、其他は殆んど我國製品の獨占市場と云ふも過言でない。水牛鈕も殆んど獨逸製品を以て當市場を獨占せる状態ではあるが、他の貝鈕等に比すれば其需要極めて尠なく、其用途は單に洋服或はスエーターに使用さるゝのみである。ナット鈕は主として獨逸製のものにして其價格比較的低廉なる爲め其需要も相當多い、最近我國よりも多少本品の輸入を見る様であるが、價格も高く又仕上に於ても到底獨逸製品に及ばない様で、從て其輸入額の如きも極めて尠少である。

左記輸入統計表の示す如く貝鈕の輸入額は卑金屬製鈕に次いで多く、一九二六年には十三萬九百九盾を示し、一九二七年には三十二萬五百六十九盾に遞増し翌一九二八年には十九萬六千四百四十五盾に低減してゐる。

今仕出國外輸入額を見るに本邦は第一位を占め、和蘭は第二位を、獨逸は第三位を占めて居る。今一九二六年に於ける本邦よりの輸入額を見るに十一萬六千六百四十八盾にして本品輸入總額の八割九分を占め、一九二七年には三十三萬三千五百八十一盾にして輸入總額の九割四分と云ふ壓倒的比率を示して居る。而して翌一九二八年には十八萬一千六百四十三盾に減じ輸入總額の九割二分を占めてゐる。

斯の如く貝鈕は我國製品を以て殆んど當領市場を獨占し、將來益々遞増するものと見らる。

我國より輸入さるゝ貝鈕には高瀬貝、蝶貝、ドブ貝、玉貝、廣瀬貝等で製せられたもので、何れも洋服、シャツ、

スウエター、バジヤマ等に使用される。

(イ) 高瀬貝鈕 高瀬貝鈕は貝鈕中最高級に屬するもので其價格も他の製品に比し頗る高く、從て其需要も割合に尠い。當領市場に輸入さるゝ本品は歐米向の二三等品にして其表面に糸目が顯れて居る品質の劣たものであるが、是を一等品と稱して取扱はれて居る、本品はシャツ用としては一六、一八ラインのものゝ需要が最も多い。洋服用としては二八ライン、スウエター用としては二八、三二ライン、婦人用スウエターには三二、三六、四〇ライン等が最も需要がある。而して、シャツ、バジヤマを除きては二足ものゝ賣行が多い様である。

(ロ) 蝶貝鈕 蝶貝鈕は高瀬貝鈕に亞ぎ高級品として取扱はれて居るもので其需要も相違ある様であるが主としてシャツ用である。

(ハ) ドブ貝鈕 ドブ貝鈕は我國より輸入さるゝ貝鈕中其需要最も多くシャツ鈕、バジヤマ用として使用さるゝものである、從て一四、一六、一八、二〇、二二ライン迄はシャツ用とし、二四、二六、二八、三〇ライン迄はバジヤマ用として需要あるものである。而して洋服及スウエター用としての需要は極めて尠い様である。其他に廣瀬貝鈕、イミテーション、アイボレ等もあるが、是等もドブ貝、蝶貝等の鈕に亞ぎて賣行のあるものである。

本品は同一種類の製品にても其品質仕上等に依て其價格に相異を來す事は論を俟たぬが、其品質の識別は甚だ困難である。從て其相場も區々であつて一定して居らぬ、故に的確に明記する事は至難である。併し當地市場に於ける賣行あるものゝ卸相場は大體左の通りである。



海外市場に於ける本邦品

一、高瀬貝 貝 釦

二〇ライン	(四ツ穴)	同	単位一マース	一〇、〇〦 <sup>盾</sup>
二〇ライン (上モノ)	(四ツ穴)	同		一二、〇〦
二二ライン (上モノ)	(一棒)	同		一二、〇〦

一、ドブ 貝 釦

一六ライン	(四ツ穴)	同		五、〇〦
一八ライン	(一棒)	同		六、〇〦
二〇ライン	(四ツ穴)	同		七、五〦
二二ライン	(同)	同		八、〇〦
二四ライン	(同)	同		九、五〦
二六ライン	(同)	同		一一、五〦
二八ライン	(同)	同		一二、五〦
三〇ライン	(同)	同		一四、〇〦

一、高瀬貝 釦二足もの

一〇ライン		同		九、五〦
-------	--	---	--	------

一、サザエ貝 釦三等品

一八ライン	(四ツ穴)	同		二、二〦
同	(一棒)	同		二、二〦
二二ライン		同		一〇、〇〦
二四ライン		同		一二、〇〦
二六ライン		同		一三、五〦
二八ライン		同		一五、〇〦
三〇ライン		同		一九、〇〦
三二ライン		同		三〇、〇〦
三六ライン		同		三六、五〦
四〇ライン		同		三九、〇〦
四二ライン		同		四二、〇〦
四四ライン		同		四六、〇〦
四六ライン		同		五〇、〇〦
四八ライン		同		五六、〇〦
五〇ライン		同		六八、〇〦

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

二〇ライン	(四ツ穴)	同	三、〇〇
同	(一棒)	同	三、〇〇
一、廣瀬貝釦			
一六ライン	(四ツ穴)	同	一一、五〇
一八ライン	(同)	同	一四、〇〇

取引は一般に十二哥を以て一桧と稱し之を取引單位と定めて居る。而して洋服、スウエター等の大サイズは一哥を以て建値として居る様である。

包装並に荷造は硝子製を除きては陶磁器類の如くに破損率は大ではない。従て荷造に就ては特に業者の注意を促す點はなく、普通一般に一哥を紙箱に入れ十二桧を一箱の容數として居る様である。本品は極めて嵩張らぬ商品である爲め、其木梱の如きも他の商品と異なり小形であつて取扱にも便利なる爲め破損率も極めて尠ない様である。

本品は他の雜貨類と殆んど同じく、普通D・A三十日乃至六十日を以て爲替を決裁す。(大阪市スラバヤ囑託報告)

蘭領印度の鈕釦輸入額

(一) 骨 釦

國 別	一九二六年			一九二七年			一九二八年		
	數量	重量	價格	數量	重量	價格	數量	重量	價格
和 蘭	七五、〇八〇	六、三五五	一五、九九九	七五、一四〇	六、三三五	一三、五八八	六、一四、五九八	七、三三〇	一五、九〇五
英 國	三六、七〇八	八三三	四、二五五	二二、七九九	七四五	五、五八九	二七、六四三	五二八	二、五三三
獨 逸	二、三三、二五〇	二二、六二六	三八、八九〇	二、九二二、二一〇	二六、三六〇	四五、八八〇	五、〇八五、八八〇	三九、二八〇	二七、六八二
佛 國	九一九、六九九	一一、〇五四	三、五三二	五八〇、六六五	七、六五〇	一七、〇七九	八三九、四五九	一一、六三〇	三〇、二四一
白 耳 義	五五六、六〇〇	六、三四九	二、五八〇	四三六、八〇〇	五、一五七	九、五三三	四四六、二六六	五、〇三四	一一、〇三四
伊 太 利	二七五、三五五	二、九〇一	一〇、四四九	二、九四、〇〇三	三、一三八	九、四七〇	五七六、六二七	六、九六	一五、五〇八
瑞 西	—	—	—	三、一七三	五八三	一、五四三	八二、二〇〇	五九三	一、一三七
支 那	三、〇〇一	一、七九〇	六、九三八	三六、六〇〇	一、二六一	四、八五五	六、〇二二	五三一	一、二九三
日 本	四九六、五〇八	七、〇八一	一九、九七二	三九六、一九三	八、七三三	二二、九八六	三四一、〇八七	一〇、一三〇	一六、七三六
總 計	五、三四八、四八七	六二、六五	一三三、三四四	五、五三三、二七八	六〇、八〇六	一三三、〇二四	八、〇二二、二四九	八三、二六八	一六八、四三四

海外市場に於ける本邦品







海外市場に於ける本邦品

港別	一九二六年			一九二七年			一九二八年		
	數量	重量	價格	數量	重量	價格	數量	重量	價格
總計	五〇五、七四	七、七五三	二〇、三六八	三、三三、四三三	三五、三三二	六〇、〇三三	一、五三、一〇〇	三〇、九四	五八、四二五
伊太利				七八八、五三〇	六、三三八	八、四一八			
佛國				七五一、三〇八	四、六九二	三、一六五			
日逸本				七四三、六二二	一三、四四九	二九、四九八	七〇八、五三四	二〇、一八六	三七、三三三
獨逸				三八四、〇六六	三、一八六	四、四八二	三三二、三五二	四、一五〇	一〇、四三三
英蘭				二八五、九〇〇	三、三八七	七、七八七	一八七、七四四	二、一六〇	四、五二二
和蘭				三三、七七七	一、六三三	四、七二九	六三、一七八	二、六六四	四、四六七
其他の鉦 (貴金屬ヲ除ク)									
總計	一九七、七五	三、五九九	九、七七七	二七五、六〇八	四、六九三	一八、七七六	一九三、二二六	四、七八七	一六、二四
日逸本				七七、五八〇	一、二四六	一、四九九			
佛國				二七、〇三三	二、二二二	九、四〇七	二六、九二四	一、五四四	六、七四九
獨逸									
和蘭									
英蘭									
總計									

海外市場に於ける本邦品

港別	一九二六年			一九二七年			一九二八年		
	數量	重量	價格	數量	重量	價格	數量	重量	價格
總計	二、九七一、四三七	二八、七七五	六八、六六五	三、四六九、七八二	三三、六六五	七四、〇一〇	四、七七六、三七〇	五〇、〇三五	一〇、一一九
伊太利	一、五〇一、三七二	一九、九八六	四四、五五五	一、五〇一、二〇八	一六、五〇二	三七、七一九	一、七四八、〇五	一八、六八二	三九、二二六
佛國	八一九、四六九	二、七三五	一八、二四六	六六八、五〇九	七、八七五	一六、一五四	一、二八二、一七六	二、三六五	二、三六四九
日逸本				一六四、七〇〇	一、七六五	四、一四二	二二四、六〇〇	二、一九六	四、五四〇
獨逸									
英蘭									
和蘭									
其他の鉦 (貴金屬ヲ除ク)									
總計									
伊太利									
佛國									
日逸本									
獨逸									
和蘭									
總計									



海外市場に於ける本邦品

(四) 青 貝 釦

バタビヤ	八七、四六五	三三、二九六	七三、二〇二	一、六〇二、八七四	三九、〇九四	三二、一〇三	八六九、三五二	二五、一五三	六九、三五六
スラバヤ	五〇五、二五七	一一、七四六	四三、八六九	二、一六八、三四一	四八、六六八	一五、九八二	一、三七〇、〇八五	三四、三五五	九一、三五五
スマラン	二八、八九五	六、〇三三	一五、七四九	一、三二一、三四四	一八、九七三	四七、二四二	八二四、一五〇	一四、六八二	三五、四三四
チエリボン									

(五) 卑金屬釦

バタビヤ	一、二〇九、〇六六	三三、〇三八	一〇六、二四二	一、二六六、九四七	二七、三五八	八九、八四二	一、九八八、〇二四	四二、六九五	二七、六五九
スラバヤ	一、一四六、六三三	三〇、七四〇	七七、八八三	二、九二一、三四五	六二、三七〇	一三六、八〇三	二、七九六、八六三	五八、三三三	三三、九三三
スマラン	三三六、二一五	五、四三三	二二、二六八	四三三、〇〇三	九、八三八	一九、二九四	九八〇、六四三	一七、三三九	三〇、四九九
チエリボン	三三、五七七	八九〇	二、七五四	四六、六九三	九〇一	一、九四三	一一四、六七〇	一、六〇六	三、二五三

(六) 其他の釦 (貴金屬ヲ除ク)

バタビヤ				五三、四二一	六、八五五	一一、七七六	四一〇、七五八	五、九五七	一一、〇〇四
スラバヤ				二、二六一、三六一	三三、三三〇	四〇、三三六	八四〇、一〇六	一九、五二〇	四〇、一八一
スマラン				四三四、六二〇	五、八七九	七、二八三	二四四、二三六	五、二四〇	七、〇九四
チエリボン									

八、新 嘉 坡 (昭和四年九月)

第一節 本邦品と外國品との競争

過去四箇年間に於ける英領馬來の釦類國別輸入統計表を掲ぐる。尤も本統計表には釦(Burton)飾釦(Studs)の外にピン(Pins)及扣子(Buckles)を含むも其數量徴々たるものにして吾人の推定に依れば一二%見當である。

國 別	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
英 本 國	九二三、六五一弗	九七八、〇四二弗	八三六、九九七弗	六四六、三八三弗
英領北ホルネオ		一八		
サラワツク		三六		五一五
英領印度及ビルマ	九、四四四	一七、五七二	二三、六八七	五七、七八五
セイロン	二五	二八〇	五〇〇	
英領香港	四六、七三七	二五、〇五一	八七、〇一八	
濠洲		一三〇	一、五六七	
オーストリア	九五〇	三〇〇	五、六八一	
白 耳 義	八、一七四	六、〇七二	七、〇七六	
チエツコ・スロバキヤ			七、〇九一	
丁 抹			一〇〇	

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

佛國	二二六、四八七	六二五、九四二	一一四、〇六六	
獨逸	三三三、四一九	三四七、〇七八	二八六、八二一	三九四、二五六
伊太利	三一〇、三二八	三〇五、五九一	八七、七九六	
和蘭	二五、三三六	二八、四四六	五、八七六	
瑞典	一、二五〇	五〇一	二二〇	
瑞西	—	—	一六八、七九七	
其他の歐洲諸國	一、八七〇	八、六〇〇	—	
米國	五四、一三〇	七七、三八九	五二、五一五	二六、九五五
日本	二九八、八四九	二三三、一七一	二〇二、四〇六	九九、〇六〇
アラビヤ	二一、九八七	六一、四九九	五一、七八七	
支那	四、八〇〇	一、四〇〇	九六〇	
埃及	九、四四九	三、五〇〇	四、八七四	
バリ及ロンボ島	—	九五〇	—	
パンカ及ピリトン	三〇〇	—	—	六〇、一九五
ホルネオ	四〇	二、八八〇	—	
爪哇	一〇二、三九九	一八、八一九	二三、二〇三	
スマトラ	一三、一九七	一二、八四六	二、七二〇	
暹羅	八、〇三六	三、四八六	一、七三五	

合計 二、四〇〇、八五八 二、七五九、五九九 一、九八四、〇一〇 一、二八五、二三四

今主要輸出國たる英、獨、日、三國の過去四箇年間の輸入率を示すと左の如くである。

國別	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
英國	三九%	三五%	四二%	五〇%
獨逸	一三%	一一%	二三%	未詳
日本	一二%	八%	一〇%	八%
其他の諸國	三六%	四六%	二五%	未詳

即ち過去四箇年に於ける英國の平均輸入率は英領馬來全輸入を一〇〇と見れば其の四一、五%に達し、第一位を占めこれに次ぐは獨逸の一五、六%本邦の九、五%等である。

右二表より釧のみに對する本邦よりの輸入年額推定は四箇年々額平均、約十八萬弗であらう。一方英國の夫れは約六十四萬弗、獨逸の夫れは約二十八萬弗、輸入總額は年平均約百八十萬弗見當と推定されるのである。

現在本邦製釧にして最も多く當領へ輸入さるゝは貝釧にして、一方英國及獨逸製品は何れも金屬製、骨製等のもの多く、賣込上の地盤は可成判然と相違してゐる爲めと常に大いに相場の變動ある商品にあらざる關係上、競争品と名の付くものはあつても本邦品に於ては他商品に見るが如き激烈な競争は見ない。

第二節 需給並に取引

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

需要の状況 當領市場に於て普通見受けらるゝ釦の種類は左の如くである。

普通釦 用途より分類すれば (イ) 衣服及下着用 (ロ) 家庭用 (ハ) 特種用に三大別することを得る。

(イ) にありては洋服の上衣、ズボン、チョッキ、外套、シャツ、股引等の釦 (ロ) にありては夜具、椅子蓆、枕等の被ひ用、(ハ) にありては自動車、オートバイ類の座席張りカヴァー用等を代表的なるものとして挙げられる。尙本類中にはカラー、カウスポタン等も含むものである。

飾釦 用途より見て装身具方面のもの多く、大人及子供用外套、洋服の上衣、ズボン用等は其の最たるものとする。

次に原料分類法に依る釦の種類としては (一) 骨釦 (二) 貝釦 (三) 金屬釦 (四) 角釦 (五) ナット釦 (六) 硝子釦 (七) 石釦 (八) 膠釦 (九) 布釦 (十) 皮釦等がある。(一) は牛骨 (二) は高瀬貝 (三) は眞鍮生地、鐵及眞鍮のニッケル鍍金、眞鍮の銀鍍金、銅の金鍍金 (四) 牛角、水牛角 (七) 寶石、人造寶石、(八) 合成膠等を以て主原料とする。

更に形状より見たる分類としては、扁平圓形、扁平ハート形、扁平正方形、球體等で、寸法より見て直径最大一寸五分最小二分位迄である。

需要の最も多きものは先づ用途の上より見れば普通釦、飾釦の兩種を通じて、衣服用及び装身用最も多くこれに次ぐに家庭用を以てする。尙需要上より見たる釦の種類としては骨釦、金屬釦、貝釦、角釦、アイボリナット釦で、此

の裡にて特に賣行よきは金屬釦とアイボリナット釦で貝釦及骨釦これに次ぐ。

尙消費者別より見たる消費率の推定は左の如くである。

洋 服 商	六〇%
支那人の家庭	三〇%
其他の人の家庭	一〇%
合 計	一〇〇%

本品は家庭必須の日用品であるから需要は年中ある事元より言を俟たない處であるが、當領住民の大多數は支那人(夫れも勞働階級及中産階級が大部分を占む)なる關係上、例年舊正月前に當る一、二月頃には丁度馬來人の正月(土語にてコワサ若しくはボワサと呼ぶ)にも直面せる季節として相當の賣行あり、これに續いて例年六月頃には亦一寸需要喚起さるゝを常とする。

當領に於て取引されつゝある各種鈕釦の代表的乃至標準物と見らるゝ市價を見ると、

日本製硝子釦(賣行好ましくない)	一弗八十仙より三弗五十仙位迄
一盒二百八十八個と三百個	
日本製洋服貝釦	
一盒六枚揃、一枚五個及二十五個	四十仙より二弗位迄
海外市場に於ける本邦品	



海外市場に於ける本邦品

日本製シャツ用貝釦

一盒十枚及一打入一枚揃釦一ダロス

一弗五十仙より一弗八十仙位

獨逸製エナメル鍍金飾釦

一盒六枚揃及一打揃、一枚揃二十四個

一弗八十仙より三弗五十仙位迄

獨逸製鍍金釦

安價品(一盒六枚揃及一打揃、一枚六個)

六十仙より一弗内外迄

英國製鍍金釦

各種あり

二弗五十仙より四弗位

新嘉坡製銅釦

一揃五個

八仙より十仙

新嘉坡製アイボリーナット釦

同

二十五仙より六十仙

新嘉坡製水牛釦

同

五仙より十二仙

其他各國製洋服釦

(各種材料)一盒

二、三弗より十弗位迄

英國製 眞鍮釦(ツボン用)

一盒 一四四入

一盒 五十仙

同 牛骨釦(ツボン用)

一盒 一四四入

一盒 七十仙

(右各二分の一時及八分の五時四ツ穴)

英國製 合成膠釦 (上衣用)

二分の一時及八分の五時四穴 四×六個物半打入

一盒 二弗

八分の五及四分の三時四穴

四×九、三×八個物半打入

一盒 二弗より二弗二十仙迄

四分の三及八分の七時四穴

六×六、四×六、三×八個物半打入

一盒 各二弗二十仙より二弗八十仙迄

一時、一時八分の一、一時八分の五、四穴、

二×六、三×四個物半打

一盒 四弗より六弗迄

英國製 貝釦

(シャツ用)

八分の五時六×六個物

一枚に付 一弗

(上衣用)

四分の三、八分の五時四×六個物

一枚に付 一弗二十仙より一弗六十仙

(オーヴァーコート及

スエーター用)

一時、一時八分の一、一時八分の五、三×四、二×三個物

一枚に付 一弗六十仙より二弗二十仙迄

### 取引の状況

先づ歐洲方面より輸入されるものと、日本より輸入されるものとに二大別して、今取引の徑路を見るに、前者にありては輸入業者は市内に散在せる約百五十軒の洋服商及百貨店、雜貨商等へ卸賣を爲し輸入業者自身は小賣を爲さざるに反し後者の夫れは、輸入業者は主として市内に於ける洋服商、雜貨商及び大道商人(主に支那人及び印度人である)及夜店(支那人に多い)等に賣捌をなす一方同店々頭に於て小賣をも營んでゐる。これ歐洲品は概して白人其他の大貿易商乃至雜貨輸入商が輸入せるに反し本邦製品は邦商及支那人の雜貨商が輸入し彼等の多くは小賣を兼業としてゐるからである。

後者の特色とする點は支那人輸入業者は本邦品の大きな購買力を有す所謂大道商人(含夜店)に卸賣をなすことである。白人輸入商が直接是等の大道商人へ小卸賣爲す事は稀にして普通支那人雜貨店が仲次をする。

海外市場に於ける本邦品



産地よりの買付に對する代金決済方法は勿論賣買双方の協定に依る事なれど最も多く行はれ居る方法は歐洲物は荷爲替手形取組としD・A六十日サイト信用狀を別に發行せぬ、對日取引は三十日D・P荷爲替取組に依るものが多い。但し支那商が阪神の支那人買取次店より仕入れる場合(一)無爲替とし着荷後電送する方法(二)新嘉坡よりの輸出品と相殺する方法を普通取れるものが多い。

### 第三節 品質及取引上の缺點とその改善策

**品質上の缺點** 最近本邦製ボタンの代表的と看做さる可き貝ボタンに就き品質上の缺點としては特に取立て、云々されたる消費者側の悪評を聞かぬ。強いて求めるなれば使用材料の低下で、即ち高瀬貝を使用せるもの、裡には其の適例がある。尙上等品にして光澤及仕上げの不揃なるものがある。又(一)上衣ズボン用釦の金具がつけねより取外れるものがあること、(二)シャツ釦の二ツ穴乃至四ツ穴が壊れるものがあること等は夫々注意の要ありと認む。

**取引上の缺點** 賣込方法に就ては別段に特筆を要する程の缺點と看做さる可きものはないが、内地輸出家の海外市場に賣込むに當り成談に汲々たるの餘り、消費國市場に於ける顧客に對し同時に二軒へ同値のオッフア(殊に Firm offer の場合)を發し反響を期待するもの等あるは賣買双方の爲策の得たるものでない。敢えて當業者の一考を煩はし度い。

代金支拂方法に就ても特別に改善を要すべきことはないが、當地に於ける輸入業者は往々積載船入港し貨物陸揚港務局倉庫に收容後數日以上を經過して始めて船積書類を銀行より呈示さる事不尠、此の場合等 Letter of guarantee を

餘り利用せぬ(L・C發行の場合に非ざる限り店に依つては Full margin を銀行へ積立てるの要有る爲め)を常とせるを以て、倉庫料其他不慮の費用を要し薄口錢の品にあつては、利益に影響する事不尠により、内地輸業者は積出に當りては此點を留意すべきである。

### 第四節 需要者側の嗜好と本邦當業者の特に留意すべき點

A 本邦製上衣用高級貝釦は在來より白人、日本人を始め支那人中の比較的地味な方面向として不拔の地盤を有せる處なるが、近年當市人口五十三萬の約八割を占むる支那人中の青年(學生、會社員、商店員等)並に當地にて英語教育を受けし馬來、印度人等の若い者の間には、一時的流行とも受取れ難き、貝釦以外の釦——例へば金屬鍍金、骨、其他(殊に形狀種々な鍍金物)——が愛用され居る傾向ある事は亦見逃し難い處で、これが爲め一見釦の需要減少を思はずものある位なれば、内地製造家は是等の當地に於ける殖民地的流行にも一通り通曉の上、邦品貝釦に對しては寧ろ地盤保持を目標に置くの要あるものと認む。

B 目下當市場に於て最も數量多く賣捌き可能なるは洋服上衣用四分の三吋及二分の一吋鍍金釦である。英國米國並びにチェッコスロバキヤ國より輸入の鍍金釦は鍍金に對して五年乃至十年の保證を付け、輸入業者は五個一組として一弗五十仙乃至二弗五十仙見當にて、小卸業者へ荷捌し、小賣業者はこれを店頭にて二弗五十仙以上四弗見當にて賣捌いでゐる。邦品にして此種の鍍金保證付優秀品が割安に提供されんか相當賣行ある可き處と一支那商は語つた。



海外市場に於ける本邦品

C シャツ貝ボタンの類は在來より日本品の獨占舞臺である。本品は主として支那人家庭に最多の需要を有し、主として大道商人の手を通じて彼等の家庭に入り且つ日常必須の家庭用品なれば、ボイコット等の影響は常に他種の商品に比較し割合に僅少であるから、今後共内地輸出家、製造業者は本品地盤確保の爲努力相成りたい。

第五節 本邦品の將來

本邦の代表的なる釦としての貝釦の當市場に於ける將來は、如上述來りし處より概察するに、一面近年貝以外の釦既述の如く流行の頂にあるも、これが爲め貝釦の需要が實際に於て減少せしとは元より思へず、當業者の意見を綜合するに、矢張り手堅き需要を有せる處なり。茲に於てか邦品貝釦中、上衣用各種は客筋より見て矢張り高級品が需要ありシャツ用其他の小形貝ボタンは容筋より見て支那人中産階級以下に需要を有せる爲め、前者は品質の優良を主眼とし後者は相成可値段の安き方氣受けもよく賣込上得策ならんと思惟さる處である。吾人が本題下に於て今日希望する事は邦品の販路擴張に非ずして當領刻下の實狀より見て寧ろ舊來の地盤の保持にありと了解されたい。

第六節 新嘉坡に於ける鈕釦工業

當領に於ける製造は未だ家庭工業の域を脱せず其の數量特筆する程の事ならずと聞く。年額製造高不詳なるも吾人が當業者の意見を參酌して推定するに、約三、四十萬弗の見當であらう。

實際の製造實は全部支那人にして其の數約十餘軒ありと云はる處にして製造品は骨、アイボリ・ナット及金屬釦である。これ等の中白人の經營せる Rigold Bergmann & Co. b. Ltd. 72 The Arcade, Singapore. は最有力なりと聞く

(註同社は製造を華僑に請負せしめつゝある)(新嘉坡商品陳列所報告)

尙參考のため、新嘉坡に於ける輸入業者の主なものを示すと左の如くである。

輸 入 業 者

N. V. Straits Java Trading Co.,	104 & 106 Robinson Road
Brinkmann & Co.,	St. Helen's Court,
Kwong On (chop)	26, 28 South Bridge Road
Wing Loong	32 High Street
Hin Woo & Co.,	16 "
Wing Hing Loong (chop)	18 "
Yue Tai (chop)	19 "
Tuck Hing & Co.,	21 "
Tai On (chop)	23 "
Tong Yack Hing & Co.,	25 "
Lee Sang Yion & Co.,	40C-40D,
Chap Yick	40E "

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

Leon Hing Co.,	41	"
Ng Hong Hing Co.,	42	"
Sam Thing (chop)	24	South Bridge Road
Sam Yick Co.,	30	"
Kwong Fook Tai (chop)	231	"
仲川商店 Nakagawa Co., Ltd	7-8	High St.
櫻商會 Sakura Co.,	223	North Bridge Road

(其他卸賣業者多數に付省略す)

九、暹 羅 (昭和四年十月)

第一節 本邦品と外國品との競争

釦類はその種類甚だ多く枚舉に遑がないから大體之を高級品實用品とに分類する。現在高級品としては本邦品尠く、殆んど外國製品輸入され、實用品は之に反し本邦品の獨占である。随つてその需要も異なるが故に兩者は無競争の状態にある。

第二節 需給並に取引

需要の概況 需要の種類を品質上及需要者側より觀るに、先づ品質上にあつては當地は背廣服に比し詰襟服を着用す

る者多き關係で、足付五ツ揃釦最も多く使用され、貝釦、骨釦及金屬釦の三種がその主なるものである。シャツ用としては二ツ穴貝釦の需要も亦多い。

次に需要者側にあつては大小を問はず穴明釦類は直接消費者の需要尠く、主として仕立專業者によつて需要さる。これ當地は内地と異なり、その衣服は仕入物(仕立專業者の造つた既製品)を購買して着用し、家庭に於て裁縫するもの稀なる爲である。

而して最も多く需要さるゝものは骨釦、貝釦、金屬釦及ナット釦等にして水牛釦は僅少である。その内貝釦はシャツ用、洋服用その他に用途多く、その需要量に於ては月桂冠に値する。

需要の時期は年中大差なけれども特に需要期と言はゞ農繁期前即ち農業服仕立の盛なる十月及十一月である。

輸入業者對問屋間の取引價格は昭和四年十月現在に於ては (單位一マース)

黒 中形	九〇サタン (邦貨約八一錢)
黒 小形	八五同 (同 七七錢)
貝釦 小形	同 (同二、〇〇錢)
同 中形	同 (同二、四〇錢)

尙この外

足付五ツ揃釦一組 二五サタン (邦貨 二三錢)

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

足付五つ揃組

五〇サタン (邦貨 四五錢) (高級品)

銀腐蝕模様入組

三錢乃至四錢 (邦貨二、七〇錢乃至三、六〇錢)

で銀腐蝕は當地美術學校工藝科學生の製造品である。

**取引の概況** 取引は概して輸入業者より問屋、問屋より小賣業者或は仕立業者に、小賣業者より消費者に分配する、而して小賣業者對消費者の取引は概ね現金取引なれど、輸入業者對問屋、問屋對小賣業者又は仕立業者間の代金決済方法は通常引渡後三十日乃至六十日拂の信用取引なるも、昨今の如く市況沈滞の状態にありては約三ヶ月後である。

### 第三節 品質及取引上の缺點とその改善策

**品質上の缺點** 現今本邦品は昔日に比し、漸次改良されつゝあるも、未だ品質不良、仕上不親切等の誹を受くること往々あり。即ちシャツ用具釦、骨釦の如き、品不揃、肉薄等の缺點多く、二、三回の洗濯により穴破損するものもある。甚だしきは穴明不充分(主として穴と穴の間隔)、最初より毀損等到底使用に堪へざるもの混入しあり、粗製品即ち本邦品と云ふ者あるも當然であつて遺憾に堪へぬものである。

**取引上の缺點** 取引の根本たる商業道徳を無視せる行爲が多く、一例を擧ぐれば曩に本邦の當業者甲來盤せし事あり各輸入業者は主として無責任極まる華商間に注文を涉獵し、多數商人より相當受注した。その積出に際し同一船にて積送せし爲、各華商は我先に賣急ぎ採算外の相場を出し、忽ち本邦製釦類の取引は一頓坐を來たした、折しも來盤せるは受注困難にて餘儀なく華商の指値注文に應じ、その送荷に際し一見大差なき程度に品質を落せしが爲、評判悪く販路も縮少され今日の如く悲境に陥つた。之を要するに將來の發展を考慮せず唯眼前の利益のみに走る内地當業者の罪と云ふも敢て過言ではない。

之が改善策としては製品は敢て華美に流るゝの要なく實用に堪へ得る程度の良品を製造し、信用を回復するを要し現在行ひつゝあるメリヤス、エナメル製品等の如く輸出品検査法を施行するも良策なりと信ずる。

又同一品にありては無意義なる競争を避ける爲華商との直接取引は出來得る限り之を廢し本邦品に對し理解を持つ有力なる本邦輸出入業者をして取扱はしめ、廣告及宣傳と相俟て本邦品の眞價を發揮し販路の擴張を圖るを要すること及由來釦類の取引には多く神戸に於ける華商館を経て手数料(賣手買手双方より各二分乃至三分)を支拂ひ荷爲替を取組みてゐる現状にして商品原價を高むること甚だしきを以て海外輸入商との直接取引に改むるは當を得たる一策であらう。

かくして以上の缺點を補ひ優良品を供給せば益々需要激増し恒久的需要國となるは言を要せぬところである。(大阪市盤谷囑託報告)

## 10、印 度 (昭和五年一月)

### 第一節 本邦品と外國品との競争

印度に於ける釦工業は今尙幼稚にて工場と目すべきもの四、五あるも、大體印度製のものには工費其他の關係上外國品との競争不可能の状態にあるを以て、其の需要の大部分は輸入品を以て充たしつゝある、印度輸入釦の輸入先は

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

本邦品を最多とし、一九二七—二八年の輸入総額三百十五萬三千留比中二割八分を占む。尙獨逸より二割三分の輸入ある外伊太利、致須よりも相當の額を輸入する。今最近四ヶ年間に於ける各國別輸入額を示すと左の如くである。

國 別	鈕 釦 國 別 輸 入 額			
	(單位千留比)			
英 國 (諸領を含む)	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
獨 逸	二〇四	一八八	一八七	一八二
伊 太 利	六三六	五〇六	六四九	七二八
致 須	五四四	六九一	一、二二二	五四四
日 本	九一三	二五四	二六〇	四七七
米 國	二七	四七	一、二六一	八九七
其 他	三七八	一二四	五八	一九一
計	二、七〇二	二、七七八	三、七〇六	三、一五三

各種釦中金屬製のものは獨逸及致須の各製品が當地市場に確實なる地位を有し、伊太利品も亦意匠等優れ居る爲相當需要あり、英國品は品質優良なるも價格高きに失する處より需要は餘り大でない。尙貝釦特に m o p に至りては本邦品の獨り舞臺の觀ありて、全く他國品に卓越し品質可良光澤に富み、色合純白なる點に於て廣く歡迎せらる、他

國品は黄色を帯び兎角く純白を缺ぎ而も仕上げが良好でない爲好評でないやうである。

現在當地市場に於ける各國釦の繩張りを示さんに

日本品は	m o p 釦
英國品は	襯衣用釦
伊太利品は	洋袴用釦
致須品は	錫製釦
獨逸品は	骨、眞鍮其他金屬製釦

と云ふが如く一定の範圍を存して居る。

第二節 需給並に取引

需要の狀況 前項記載の通り本邦品は貝釦殊に m o p 釦が代表である。併し本邦製金屬釦の輸入皆無には非ざるも其の輸入額は一ヶ年約一萬二千留比位あるに過ぎない。之れ本邦品は原料の關係に於て既に他國より不利の地位にある爲で、曾て大戰當時は本邦ニッケル釦の大量輸入ありたるも、現在は其の影をも止めざる状態である。

釦の需要は玩具、洋傘、陶磁器其他一部雜貨等と異り一定の需要季節なく當時其の需要がある。而して m o p 釦中當地市場にて最も好評なるは本邦品 Q 印にして其の需要も極めて多い、其他太陽印、ダイヤ印等前者に比し、品質稍々劣るも之亦相當の需要がある。

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

右の如くQ印は全く品質優良にして他の製品に卓越し、當地市場の標準品として好評なる處茲數年來競争品續出する爲從前に比し、品質稍々落ち賣行も五年前より見て著しく減じたやうだ。當地取扱商側にてはQ印の眞價は充分知りながら兎角他の安値品に押され氣味にてQ印も約二割五分方の安値に引下げらるゝに於ては却て需要を増加すべしと云ふ者がある。英國及伊太利品も種々市場に見らるゝ處Q印は是等を凌駕し居るを以て是等と對抗上品質の下落を來さざること肝要である。

最近に於ける卸値段を見るに、

一六連	一ケロス	一四安
一八同	同	一留比
二〇同	同	一留比三安
二二同	同	一留比八安
二四同	同	一留比一四安
二六同	同	二留比六安
二八同	同	三留比
三〇同	同	三留比一二安

右の内一六、一八、二〇連のものは襪衣用として需要多く且つ増加の傾向あり又二六、二八、三〇連のものは上衣

用として需要あり、併し襪衣用のもの程増加の傾向なしと云ふ。

尙卸商の利益は大體一割五分乃至二割見當にて小賣値段は卸値段よりも四割乃至六割方高値なりと、蓋し小賣にては服何着一揃等として極く少量宛賣捌かれて居る爲、口錢も相當多からざれば引合はないと當業者は云ふてゐる。

取引経路 本邦卸m.o.pの取引は本邦に在る印度商の手により買付けらるゝものと本邦輸出高より印度輸入商の手により直取引さるゝ場合とある。尙前者の場合に於て往々見本と異なるもの仕向けらるゝ結果再注文を躊躇されたる事例あり、彼等不用意或は無自覺なる印度商の介在は相當弊害多きものゝ如くである。

代金は普通 C.I.F 一覽後三十日又は六十日拂で決済さる。

第三節 品質及取引上の缺點とその改善策

品質上の缺點 概して品質上の非難を聞かざるも「スモークカラー」ものにして劣悪品を安値を以て仕向くるものゝ中には本邦品の品位傷くる虞のあるものが少なくないから當業者としては餘り安値の劣等品を輸出するは考へものである。

取引上の缺點 賣込方法に就ては品質見本と相違し又不揃なることの弊を矯めしむること及同一市場に餘り多數の取引先を作らぬこと特に新取引先への賣値は舊取引先への賣値より絶對に下げぬことにて本邦商は總て何品に限らず一市に多數の取引先を設け、而も新取引先へは舊取引先よりも安値に提供する風ある爲不正競争、値段の不安定等の弊を數次繰返されてゐる。

如斯弊あるは日印何れの商人に責ありやは斷じ難い處で、注文毎に買唱えを安くする印度商の申込に對し本邦商側

海外市場に於ける本邦品



は兎角其の値段に合せて品質を下落せしむるを餘儀なくせられ、着荷毎に品質低下するが如き事象往々あり此の場  
合印度商は年來の取引情誼の上より大概の處は我慢し來れる由なるも、輒近は益々此の傾向著しき爲、結局劣悪品を高  
値に買はさるゝ譯にて、印度商側は此の危険を避くる爲、高値の注文を發し得ずと云ふ。惟ふに之は一に本邦商が賣  
焦り等より法外の安値注文にも引掛るが爲にて必ずしも印度商側の奸策のみを責むべきでないが、斯かる傾向は釦  
の取引には殊に著しいやうである。要するに本邦製造家に於ては或限度以下に品質を絶対に下げぬと云ふやうになら  
ない限り、日印双方の奸商は種々の弊を繰返すこととなり、結局正直且眞摯なる製造家乃至取扱商の存在を危ふせし  
むるに至るべく、既に當地市場へ安値物を賣廣めたる今日、之を向上することは容易に望み得られずとするも、理想  
としてはQ印程度の上物を廣く賣込むことで、現在の如く十連一グロス六安と云ふが如き、破格安値品さえ仕向けら  
れ、是等は形體が釦なりとの名許りのものにて、不同不揃甚しく孟買市中にては到底賣れず、多くは奥地方面へ押付  
商内をなさるゝものである。斯かる劣悪品は實に本邦品の聲價を傷くるものにて大局上より見て此種粗悪品の輸出は  
成るべく避けたいものである。

荷造發送方法に就ては、積出期の不嚴守及包装粗漏の爲或は低へ縫着けたる絲が弱い爲開函と共に零るゝこと往々  
ある故に、包装を念入りにし且積出を遅れないやう注意することが肝要である。

叙上の如く本邦品は所謂安値輸入の不良品により、良品を驅逐せらるゝの憂がないのでもないから、此の點は特に留  
意し餘りの安値賣を強ひられ品質の下落を非難さるゝに至らば、折角好評を維持した本邦品 m o p の勢力を根本的

に失ふことゝなる虞がある。

#### 第四節 需要者の嗜好と本邦當業者の留意すべき點

本邦貝釦は克く一般消費者の嗜好に投合し殊に光澤美麗、純白なる點は本邦品の特徵とする、普通印度にて使用さ  
るゝものは四つ穴のものであるが、二つ穴、三つ穴のものも相當にあり、尙値段の許す範圍に於て堅牢なるを要する  
蓋し印度は土地柄衣服の汚損激しく、洗濯頻繁にて動もすれば洗濯中に破壊することがあるからである。

尙カウス釦或は模造寶石入釦の如きは土人の好奇心を咬り相當有望視され居れば、此の方面に關しても本邦當業者  
は相當研究の範圍を擴大することに努めなくてはならぬ。

以上記述の通り當地市場に於ける釦は貝釦に關する限り本邦品は頗る好評なれば將來共有望なる處にして金屬製の  
ものは今一段の努力を要する。尙模造寶石入又はカウス釦等は土人の嗜好、デザイン等を具さに究め本邦の巧妙なる  
技工と相俟つて良品を仕向けらるゝに至らば相當有望視せらる。(在孟買栗原領事報告)

#### 一一、亞 爾 然 丁 (昭和四年十一月)

##### 第一節 本邦品と外國品との競争

當國へ輸入せらるゝ釦は値段又は技術兩方面からして大體貝釦は本邦品の獨占、骨製品は白耳義、伊太利、佛國  
品多く、ナット釦は佛蘭西、伊太利品優勢、金屬、硝子、セルロイド製品は獨逸チエッコ、スロヴァキア品の占める  
所である。



海外市場に於ける本邦品

一體當國で使用せらるゝ各種鈕釦は殆んど全部輸入品で年額總計凡そ百六十萬圓乃至二百萬圓見當で、其輸入品の種類は貝(原料は高瀬貝、蠔螺、眞珠母貝等である)ナット釦(原料は主として木の實)骨、蹄(水牛又は牛類)金屬、硝子、セルロイド製品等で其の内最も需要の多いのは貝釦殊に高瀬貝の釦である。而して當地方に於ける貝釦の大部分は本邦から輸入せらるゝこと前述の通りだが、肉厚若くは裏磨きの極上等品が佛蘭西から少量輸入せられて居る、之れも二、三年前から本邦品が模造輸入せられ賣行良好で普通の貝釦に比し利益が多い、併し佛蘭西品に比し肉薄だから佛國品程よく賣れない。

次に貝釦の用途はシャツ、ズボン下、商店員、醫師、藥局生、看護婦、女中其他の仕事服及通學兒童の上衣、ピシヤマ、ソフトカラー等で需要の範圍は頗る廣い。

其他の鈕釦即ち金屬製釦は軍人、門番、給仕、昇降機握手、其他のユニフォーム用、ナットは洋服、外套用、硝子セルロイド製品は主として婦人服の裝飾用に使はれて居る。要するに貝釦以外のものは何れも裝飾的意味が含まれて居る關係上流行、嗜好の變遷が可なり多い。

貝釦の代用品としては近來硝子、セルロイド、木製品等が獨逸チエツコエスロヴァキア、佛蘭西、伊太利方面から盛に輸入せられ、婦人服の裝飾として使用せられ體裁立派で而も安いから本邦品にとつては勁敵の感がある。

要するに從來から各種本邦製鈕釦が輸入せられしも、成功して居るものは貝釦丈で、金屬、硝子、セルロイド製品は技術及値段の點でチエツコエスロヴァキア、獨逸品に、骨製品は値段の點で白耳義、伊太利、佛蘭西製品に、ナットは

値段及技術の點で佛蘭西、伊太利製品の競争が出来ぬ。以上各種鈕釦の輸入統計は複雑して簡明でないが、其數量金額を亞國貿易年報より拔萃して見ると次の通りである。

品 種 別 輸 入 額 單位數量ハ疋、金額ハ金貨「ペソ」(邦貨一圓九十三錢五厘余)

品 別	一 九 二 七 年		一 九 二 八 年	
	數 量	金 額	數 量	金 額
男子衣服用陶磁器、ガラスパ ヒエマノシユ製下等品	六八、〇八〇	四四、四七四	六二、三五九	四一、八八五
木 製 下 等 品	二、七七四	一、〇九六	二 四	八
ズボン用木、骨、金屬製品	二一、五四五	二二、九六一	五五、二六九	六二、〇七六
シャツ用骨、金屬製品中等品	二一、九八四	三五、四四五	三一、八六〇	五三、〇九三
男女衣服用骨、木、セルロイ ド、貝製品中等品	一五六、六一六	三六九、四六七	一八四、六七七	四五六、五五一
金鍍金、貝、眞珠母貝製品 上等品	五三、一四〇	二五七、五四一	六七、四二六	三二五、四〇〇
貝、金鍍金製極上等品	八、七五九	八六、八二七	九、八三六	九五、五二五
合 計	三三二、八九八	八一七、八一	四一一、四五一	一、〇三四、五三八

國 別 輸 入 數 量

海外市場に於ける本邦品



伊 太 利	獨 逸	日 本	佛 蘭 西	其 他	合 計
一八、八三九	七三、三八六	七一、五二五	三八、九〇二	四九、九二八	三四二、五八〇
一八一、四二五	八三、四二七	八三、五二〇	六七、二五八	二五、九七四	四四一、六〇四
一九二六年	一九二七年				

第二節 需給並に取引

需要の概況 需要さるゝ鈕釦は殆んど貝釦のみで、需要期は特別のものを除いては四季を通じてあるが、最も多きは衣類の洗濯多き時期即ち當地の春より夏に至る凡そ九月頃より翌年二月頃迄である。

最近の市内卸値は高瀬貝釦一等品九番型一哥に付

價格單位紙幣ペソ (目下換算相場邦貨約九十錢見當)

卸相場	用途	賣行割合
14 〇、五五	カラー用	一

16 〇、七〇	シャツ用	五
18 〇、九〇	シャツ用	一〇
22 一、五〇	ズボン下用	六
24 一、七五	ズボン下用	四
30 三、二五	ヒシヤマ用	一

にして又蝶螺貝製一等品、九番型一グロスに付市内卸値は

14 〇、二〇	紙幣ペソ
16 〇、二二	同
18 〇、二七	同
22 〇、四〇	同
24 〇、四七	同
30 〇、八〇	同

である、取引の標準物としては八番、九番、十七番型の右と同一ラインにして、値段は九番型に準じてゐる。小賣相場は右卸相場に普通二割位加算したるものとす。

取引の経路 輸入商より卸商又は大需要家例へばシャツ工場等へ卸商より小賣商へ取引せられ販賣の方法としてブローカーを介し或は店員を派して取引せられてゐる。當國人は外國との取引に馴れて居るから、重なる小賣商及卸商は

海外市場に於ける本邦品



多く産地取引殊に製造家との直接取引を希望する風があるけれども、本邦品は内地相場の變動甚しく且つ多く在留邦人で取扱ひ賣込競争激甚なる爲め本邦との直接取引を避けてゐる。先年或る本邦品の賣込價格につき在留邦商間に協定したることがあつたが、成立するや間もなく違反者が出来て不成功に終つた苦き経験があるから、再び當地方では本邦品の價格協定及互に賣込先の侵害防止に關する妥協等は成立困難である。

**代金の決済** 前述の如く對本邦取引は殆んど在留邦人で行はれA・D六十日位の荷爲替で代金を決済せられて居る。尙ほ當地方では三十日位の信用取引が普通で奥地取引は多くの需要者が農牧民で、生産品賣却後にあらざれば支拂が出来ないから自然小賣が懸賣なる關係上、普通九十日位の信用取引中には九十日位の約束手形取引もある。

### 第三節 本邦品の缺點とその改善策

本邦品の缺點としては肉薄なることで、荷造其他發送方法に關しては別に非難の聲はない。而して内地當業者に對する注意は外國競争品及代用品に對抗する關係上値段の勉強も必要だが品質の吟味、市價の維持及輸出數量の調節に努むることである。尤も當國の人口は僅かに一千一百万、毎年の人口増加は三十萬人位で取引は多くストック取引が行はれて居るから、常に相當のストックがあることに注意を要すと思ふ。今参考として普通歐米人の採用する雜貨賣込方法の大略を述べると次の通りである。

經費の關係により一種乃至三、四種位の商品に付き一軒乃至三、四軒の製造家或は輸出商の代表し或は委嘱されたるコンマシヤアル、トラベラーが毎年一回位南米全體に散在する各代理店を巡回して賣込んで居る。支店、出張所の

常設は莫大な經費を要するから、利益が餘程ないと之れを設けず、信用あり勉強する右注文採及代理店を通じて自己商品の安全に圓滑に賣擴めるのが普通歐米人の採用する賣込方法である。代理店の取捨、撰定は南米通の注文採りの苦心、手腕に依るもので毎年巡回の際代理店を督勵し販路の擴張を計り、併せて自己商品に對する需要者の要望及競争品に對する研究をも熱心になし、之れを製造家又は輸出商に報告して賣込商品の聲價を上げることに努力をなして居る。

而して一面本邦當業者は品質の統一、改善を計り他方生産費の低下と生産數量の調節をなすには企業の間或は之れに類する方法を講ずることが必要で、又一地方の取引者數を限定し取引業者に不安の念を懐かせず熱心に賣擴めて呉れる様に努むることが大切である。

從來の各種本邦品は多く外國品との競争でなく日本の同一商品間の競争で當然輸出輸入兩商共相當利益のあるものが、輸出先に於ける競争により利益薄となり、之が爲漸次日本品を取扱はない様になるから大に注意を要する點である。

因に當地方の需要者は國民性乃至氣候風土の關係上華美、派手好きで同時に流行を好む風がある。

### 第四節 本邦品の將來

本邦品の將來は叙上の諸點に注意せば左程悲觀すべきでないと思ふ。當地方も長年不景氣が續き殊に昨秋來内政問題で更に深刻を加へたので、贅澤なやり繰り生活の上手な需要者も近來自發的消費節約が日用品に迄及んで居る感が



ある。例へば肌身に付けるシャツの貝釦の如きも従来古物は古シャツと共に捨て常に新品を使用して居たが近來に之れを再用する風習が旺盛なる爲め新品の賣行が鈍んだ、又前述の如き貝釦の代用品が技術の進歩と生産組織の改善とにより原價低下し、其他輸出方法の進歩輸出に對する特別金融等は相俟て本邦品に對し將來相當な打撃を與へはすまいか。

一體歐米人が當地方に對する取引又其他凡て我が對支問題以上に眞剣で必死の努力を盡して居る感がある、従て一雜貨の取引でも常に新味を帯びてゐて製造家、輸出商、輸入商、需要者より先んじて品質の改善は勿論意匠を變へ流行を案出し或は生産費の低下に努め賣價を勉強してゐるから一つの商品の生命が永續して居る、他方賣込については商人である以上相當競争も猛烈だが餘程合理的方法で無理な點が少ない様である。

(在アエノスアイレス内山領事報告)

## 一、和

蘭

(昭和四年十二月)

### 第一節 本邦品と外國品との競争

當國市場に於て本邦品に對抗するものは伊國及智惠古産品にして、殊に伊國貝釦釦は其の品質近時大いに改良せられ、本邦品と殆んど何等の差異を認め得ざるの域に達せるのみならず、同國は近時漸く流行品となれる石製釦釦をも歐洲市場に供給するに到れる次第なるが、唯何れも日本製貝釦釦の價格低廉なることに一籌を輪せざるべからざる状況である。従て蘭國市場に於ける本邦品の強みは此の點に有する次第である。

### 第二節 需給並に取引

蘭國に於て需要あるは貝釦釦のみにして、就中蝶螺製のもの、需要最も多く、ドブ貝製品之に次ぐ。前者は小型貝釦釦に適しシャツ、ワイシャツ、婦人用下着に最も多く用ひらる。尙蘭國の英獨等より輸入する上記衣類にも日本製貝釦釦の使用され居るを見ることは稀ではない。

貝釦釦類に對しては通例七月、八月頃に注文を發せらるゝが、當國に於て需要の最も多き時期を云へば十一月より四月に至る間である。尤も前記の小型貝釦釦に對しては一年を通じて其の需要は絶へない。

取引は日本と直接になす者少く、多くはハムブルグ、アントワープ等の輸入商を通じて間接に行はる。代金の支拂は普通荷物到着後とし現金拂なる時は三分の値引、日附後三十日拂爲替手形に依る時は二分の値引をなし、同九十日拂なるときは値引をなさない。

### 第三節 本邦品の缺點とその改善策

品質上の缺點として従來は裏面に褐色の部分あるもの又歪めるもの等品質の劣等なるものありしが、近頃優良となり最早や之を擧ぐべきものはない。

取引上の缺點として先づ賣込方法に就て見るに、本邦貝釦釦輸出商は各自海外に取引先を求めて取引關係を結び來れるが、斯くては輸出價格の統一を期し得ざるのみならず他の競争國に對する陣容不備ならざるを得ざるが故に、本邦の貝釦釦製造工場は歐洲諸國に卸賣を専業とする一流のエージェントを設置し、以て國內の衣類製造工場及小賣商に

海外市場に於ける本邦品



手廣く供給せしめ、兩國輸入業者間個々別々の小取引は之を廢止するを可とする。

荷造其他發送方法に就ては別に缺點として認めらるゝものはないが、小賣商には一打宛厚紙に縫付けたるもの六枚を一箱に收め五個若くは六個を以て一包となすを便とし、衣類製造工場向としては一哥を一枚の厚紙に縫付けたるもの十二哥を以て一包となす方が好適である。

代金支拂方法に就ては本邦輸出業者の多くは相手方にバンク、クレディットを要求するを常とするも、斯くては取引の成立容易ならざるのみならず延いては本邦貿易の發達に一大支障を來すものなりと思考せらるゝを以て代金支拂方法としては普通荷爲替によることとし、取引の頻繁に行はるゝ時は本邦當業者は蘭國一流銀行に口座を開設し、代理店をして同行に拂込ましむるも其の一策なるべしとのことである。

而して上述のシャツ、婦人用下着等に使用さるゝ小型貝鈕には流行に依る變化はなきも、洋服上衣及オーバー用大型貝鈕は流行の影響を受くること大なるが故に、本邦當業者は絶へず需要地の流行に留意するを要す。此の點に於ては本邦品は流行後れの嫌なしとせずとは蘭國當業者の語るところである。

#### 第四節 本邦品の將來

前述の如く本邦品は其の品質他の競争國の製品に遜色なきのみならず、價格比較的低廉なるを以て其の販賣方法及代金支拂方法に改善を加ふる時は尙將來相當發展の餘地がある。只茲に一言すべきは蘭國の關する限り小國市場の事として其の本邦製貝鈕需要量(蘭國の本邦品輸入年額不明)に自ら限りある一事である。(在蘭國廣田公使報告)

### 一三、英 國

(昭和五年二月)

#### 第一節 輸入狀況

外國製鈕の英國輸入は過去年々大凡九十餘萬磅に上つて居た所、一九二八年四月三割三步三分の一の産業保護稅實施以降一九二八年の輸入は前年の一千四百八十萬哥、九十四萬八千磅に對し千二百六十一萬七千哥、七十四萬磅にして、更に一九二九年は數量に於ては千二百二十三萬哥となり甚だしき減退を示さなかつたが價格に於ては五十四萬四千磅に著減したのである。之れ一見課稅の效果顯著なるものゝ如く見ゆるが、必ずしも課稅のみが減退の原因とは認められずして、寧ろその主因は全く流行の變遷にあるので、一九二六、七年には各種の鈕が婦人衣服の裝飾材料に使用せられたるに拘らず一九二九年には殆ど其使用を認めざるに至つたのである。又他方に於て英國製品の外國輸出も甚だ不振で、其數量價格は著しく減退して居るのである。即ち一九二九年の輸出は八十九萬哥十四萬一千磅、之れを一九二七年に比すれば五十二萬哥四萬七千磅の減退、一九二八年に比すれば二十萬哥十六萬磅餘の減少を示して居る位であるのと、又輸入品から再輸出(輸入數量の一割二歩乃至一割七八歩)を差引きたる數量即ち國內にて消費されたるものと看做さるべき數量は茲數年大差なく反て課稅後に於て寧ろ増加して居るのであるから英國々内の鈕工業は決して課稅の爲に盛況を來し夫れ丈け輸入を防遏し得たと云ふ事は直に斷定出来ない情勢である。



年別	輸入		再輸出		英國製品輸出	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一九二四年	10,355,010	749,366	1,677,633	146,375	1,486,643	25,194
一九二五年	11,650,000	1,095,216	2,001,914	180,215	1,533,575	21,733
一九二六年	10,490,247	873,731	1,460,599	297,791	1,369,638	193,291
一九二七年	14,806,011	948,473	1,511,011	233,218	1,415,943	188,673
一九二八年	11,621,494	740,469	1,011,633	831,183	1,086,597	157,473
一九二九年	11,397,767	543,916	1,333,913	100,978	890,587	141,109

今更に英國に輸入せらるゝ釘を其種別國別に依り過去三ヶ年(一九二六—二八年間、一九二九年度細別統計未完)の推移を見るに貝製釘が其主要部を占め總輸入數量の五割強、セルロイド、コロゾ、硝子、エリノイド製品約三割之に亞ぎ、金屬製品一割三四歩、骨角製六七歩と云ふ割合である。而して其主要部を占むる貝製品の大半は本邦よりの輸入にして獨、伊、澳、チエコ、佛之に亞ぐ、貝製品中眞珠貝品は英國々内に於て製作せられて居るが、其他の安價の貝釘は皆輸入に仰いで居るので、日本に次で獨逸からも相當輸入されて居る。本邦より輸入の貝釘に次で大なるものは伊太利より輸入せらるゝコロゾ、Vegetable Ivory 製釘で、其安價なると且使用に適恰なるため英國製エリノイド金屬リネン釘の販路を侵蝕して居る。伊太利に次で獨逸製品の輸入が金屬製品に於て最も有力、其次は主として獨逸

眞珠貝釘

伊太利から輸入せらるゝ角骨製品である。今左に其統計をせば、

國別	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
日本	130,505	8,277	333,097	20,624	70,481	49,448
獨逸	28,665	4,766	41,570	11,130	108,037	18,881
佛國	14,883	2,526	33,553	5,275	34,771	6,074
チエコ、スロバキア	13,594	2,945	26,492	6,664	34,504	5,660
合計	215,704	23,344	465,907	50,367	1,011,245	91,193

其他の貝製釘及貝以外の釘

國別	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
日本	3,639,982	178,038	3,912,246	228,752	3,044,163	195,607
獨逸	962,123	58,943	859,623	66,423	527,944	54,549
伊國	806,504	38,744	559,644	46,851	310,941	42,594



海外市場に於ける本邦品

佛 國 計	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
チエツ、コスロバキア	三六、七三	一九、二六	二八、〇〇	二一、三二	一八、三三	二〇、四六
佛國	一九、九三	一九、六三	五三、四六	一〇、六八	一一、〇二	一〇、九五
合計	六三、九三、八〇六	三九、八三九	六〇、三、七四	三九、七、二四七	四、五七、三七八	三三、四三六

セルロイド、コロゾ、硝子、エリノイド製品

國 別 計	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
伊國	二、八九七、八九	一九、六三四	四、八九九、二三五	二六七、九九〇	二、四二八、三〇五	二二〇、七二八
獨逸	二七二、九六三	二二、六六六	二四五、七七五	二八、九四三	二七〇、二九〇	三三、七八二
合計	三、五五〇、三三三	二五、三四八	五、四三〇、九五三	三九、六三三	三、〇〇〇、七六一	二八二、七五八

金屬製品

國 別 逸	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
獨逸	一、三九〇、二七三	四三、九〇〇	一、五二五、九七三	四六、二八三	七四一、三八三	四三、〇七三

角及骨製品

チエコ、スロバキア 計	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
合計	四六七、〇〇〇	二一、六七九	三七六、四三四	二一、〇二四	二五四、九九三	一五、四六九
	二、〇一八、五〇〇	七四、三三一	二、〇七〇、九五	五八、八八三	一、〇七五、二二九	六六、九八九

國 別 計	一九二八年		一九二七年		一九二六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
獨逸	一八三、四一五	一九、四三三	二四、四四〇	三〇、六六八	二六、一六〇九	二六、七二八
伊國	一四三、八七五	一一、二八九	二七四、一七二	二二、四四〇	二九四、六六九	二五、〇六一
合計	四三三、九三三	四二、五三三	八五、九三五	九二、三五四	七九八、五三三	七九、九三三

次に英國々内に於て製造せらるゝ鉛の品種は貝、角、骨、金屬、リネン、エリノイド等各種に亘つて製作せられて居るが、大部分はリネン及金屬製で之れに亞いでエリノイド製が有力で、貝殻製は主として Mother Pearl の上物に過ぎないのである。英國全生産數量は一九二三年に約一千万哥と稱せられて居つたが、漸次減退して今日は四、五百万哥と見做され、同時に輸入は最近課税の爲 c. i. f 値段の低下を餘儀なからしむるに至つた爲めに輸入價格の激減を示して居るが、數量は一九一三年以降年々約千萬乃至千二百萬哥で大差が無いのであるから、若し消費が減少したとすれば夫れだけ國內製品に於て影響を受けて居るものと認めらるゝのである。

海外市場に於ける本邦品



海外市場に於ける本邦品

右の如き事情であるから本邦貝釦の對英輸出も此趨勢に伴れて數量に於て著しき減少を示して居ないが價格に於ては大に減退したのである。

本邦貝釦の英國輸入數量價格

一九二六年	三、七六四、六四四哥	二四四、七五五磅
一九二七年	四、二二四、三四三	二四九、三七五
一九二八年	三、七七〇、四八七	一八六、三一五

而して此等貝釦の再輸出が近年甚しく減少したのである。之れは全く課税の結果と見て誤りなかるべく結局夫れ丈け本邦より直接大陸諸國に輸出せらるゝものと認められるのである。若し今後課税の撤廢を見るとせば之れが中間取引の復活は全部でなく共幾分期待出来ると同時に英國市場を最も良き得意とする裏穴釦に於て活況を見るに至るべきかと觀測せらるゝも、大體に於ては著しき進展を期待し難しとなすものが多いのである。  
英國より再輸出の釦數量各年比較左の通りである。

種別	再輸出先	一九二八年	一九二七年	一九二六年
金 屬 製	主トシテ英領地	三、九七四	五〇、六八	五〇、五四三
角 及 骨 製	大部分英領地	三、七七一	六四、三三	五七、五〇六

第二節 需給並に取引

種類	主トシテ英領地	外 國	英 領 地	合 計	獨逸、伊國、西班牙、佛國、和蘭等ノ諸外國	英 領 地	合 計
セルロイド、コロソ、硝子 サイロナイド製	三三、七〇九	三、四九六	七、六八九	四六、六〇五	三、三二〇	二、二四四	五、五六四
眞 珠 貝 製	四六、三四五	二五、二五一	三、三五四	七五、九四〇	六、四九〇	三、三二〇	九、八一〇
其 他 ノ 貝 製	四二、一〇七	五八、五二六	六、六六〇	一〇七、二九三	五、四八五	三、三二〇	八、八〇五
合 計	一二一、一七二	一、三六六	一、一八六	一二三、七二四	一、五〇五	八、八〇五	一三三、〇三〇

本邦貝釦の主として需要せらるゝ種類は普通裏穴物及高瀬九番にして特に英國向としては裏穴、高瀬一番、十七番三十七番最も重きを置かれ其四つ穴たると二つ穴たるとは用途又は嗜好の如何により需要の消長一定せず。貝種としては高瀬の賣行地盤最も強固にして佛蘭西の高瀬に比して値段品質共に優越なる地位を占むるが佛蘭西高瀬はDijonni釦と稱して佛領チブテイ附近にて採取せらるゝトロカ貝より製作せらるゝものにて、本邦高瀬貝に比し光澤少なきも安價なる點に於て注意すべき本邦品唯一の競争品である。佛蘭西は輸入貝釦に高率の輸入税を賦課するを以て佛國市場に於ては競争至難なるも他の歐英市場にては本邦高瀬の前途敢て悲觀するの必要は無からう。溝貝は値段安きと耐久力強い爲歐洲大陸に於て好評あり本邦釦中佛國に輸入可能の唯一の品種であるが、同國當業者は輸入税増率の

海外市場に於ける本邦品



運動旺にて之れが奏功の曉には本品同國の輸入は殆ど阻止せらるゝに至るべく、猶佛領印度支那に於て溝貝類の貝釦を製作し居るも其仕上等に於て未だ本邦品に及ばざる事遠きものがある。珠貝及廣瀬貝は小形の釦として高瀬貝より格安の爲シャツ用として英國及歐洲大陸にて歡迎せらるゝが値段の競争特に烈しく高瀬貝並にヂブチ貝との對抗上安價でなくてはならぬ。廣瀬は高瀬の相場上騰の際に高瀬代用又は輸入業者が高瀬と混用する事往々あり、眞珠貝は前掲統計の示す如く本邦よりの輸入著しく減退しつゝある。之れはベネズエラ並に波斯産のリングと稱する貝殻が眞珠貝に比して遙かに安價である爲之れから製作せらるゝ釦の爲に地盤を失ひつゝある様で前途は悲觀されて居る。螺貝は本邦品相場の漸次高騰したるのみならず地位遠隔の爲流行の變遷に伴ひ隨時急速の需要に供給が間に合はないと云ふ不便の爲、此等の點に於て最も有利なる立場に在る佛蘭西及チエコ品との競争に對抗し難く將來特に望みありと認められず。螺貝釦は本邦品獨得の地位を確保して居る様である。

### 第三節 本邦品の缺點とその改善策

本邦品品質或は其取引上に於て注意すべき諸點を擧ぐれば品質は漸次改善に向ひつゝあるも猶未だ非難苦情を聞くこと往々にして己まず、其主眼は厚さの不揃ひ目方の不正、一等品二等品の混合比率亂雜、裏穴釦の脚毀損物多きこと、又其孔目往々にして過小にして針の使用に適せざること、磨き仕上の粗悪、高瀬貝の裏面にある所謂綠青の殘留除去不十分、概して拙速の嫌あることである。

取引上に於て最も注意を要するは積出期日に關し契約の嚴守である。從來往々原料高騰供給不足の際積出遅延により紛議を醸したる場合多く如何なる理由に依るも許可なくして一日たりとも積出期間の遅延を許さるのである。賣込方法に於て注意すべき點は多數の製造家が個々に同士の競争をなし或は製造家直接に又は多數の輸出者を通じて廣告的値段表を受取人の如何を選ばず海外に發送し廣く之れを散布するが爲め取引を攪亂せらるゝこと甚しきものあること等である。要は大手筋卸商又は輸入商が其土地の流行見込、需要の模様を熟知し或程度の手持品を貯藏し臨時の需用に充てつゝあるを以て徒らに各多くの製造家又は取扱者が新規得意を漁つて直輸出を試むるは大局より見て不得策と思考せらる。本邦品の需要時期は其用途が主としてシャツ類、手袋、婦人服裝飾用なるを以て衣類流行の變動により偶々春秋の時季に於て一時的増加を來すことあるべきも、輸入業者に方ては年中間斷なく相場其他の時季を見計らひ適宜注文するものなれば貿易上より特定の時期と稱すべきものはない。

取引の經路としても普通一般貿易品と何等特別變りたる所なく輸入者―卸問屋又は輸入と卸問屋とを兼ねる者―中次商―(又は直接に)―百貨店或はシャツ製造家、服裝製造家、手袋製造家、釦類を取扱ふ小賣商の順序にして支拂條件は輸入取引に於ては信用狀にあるか或は六十日D・Pを普通とす。輸入商より卸商へは七日プロムプト、三十日拂現金割引の方法を普通とす卸値段c・i・f値段の約三割、小賣値段は六割位を大體の見當とする。

終りに本邦貝釦の將來について考察するに、前述の如き品質及取引上の欠點に注意改善を行ひ之れに加ふるに貝殻原料に對し單に從來の原料のみならず絶えず他國にて使用する貝殻原料にて本邦に有利に輸入の出來得るものあらば之れが購入の途を圖り、更に製造上出來得る限り機械を用ふるもの例へば穴明けの如きは現に佛蘭西にて使用しつゝ



ある一時に數個を造上げる自動機械の如きものを使用し工費を省略し安價にて豊富の供給を圖り更に製造販賣の協力宜しきを得ば尙發展の餘地大なるものがある。要するに

- (一) 品質に於て厚み、重量及各等級品混合率の調整を圖り且つ磨き、仕上げ、穴明け等製造上に關し改善を施すこと。
  - (二) 積出期日を嚴守すること。
  - (三) 製造家の共同販賣並に共同原料購買組合を組織し各自の競争を避くること。
  - (四) 輸出組合を改善し組合員の資格を資力及經驗充分なるものに限定し適當なる積立金をなし政府は組合に對し違反者罰則強制の權能を與へ其向上進歩を圖ること。
  - (五) 貝殻新原料を研究し、機械力を應用し(必要と認めれば政府より新機械の貨與等をなし)生産改善により價格の低下と供給の潤澤を期すること。
- 等は本邦斯業振興上急速に實行すべき點であると信ずる。(在英松山商務參事官報告)

## 第八章 資金及金融

鈕釦の種類は極めて多いのみでなく、製造も磁釦の如く一千坪の敷地と七百五十坪の工場建築面積を有し、大規模經營の下に行ふものあり、又貝釦、骨釦の如く自己の職場内にては單に仕上、撰別のみを行ふものもあつて生産の態

様、經營の方法必ずしも一樣でないから、各種釦につき之を説明するを避け、茲には單に貝釦、金屬釦、水牛釦、アイボリーナット釦につきその要を述ぶることとした。

製造に要する資金は云ふ迄もなく設備資金と經營資金とにして、設備資金は(一)工場の敷地、建物、(二)機械器具等である。

### (一) 工場の敷地及建物

(イ) 貝釦 貝釦の種類は既に述べた如く、使用の貝殻によつて高瀬貝釦、ドブ貝釦、廣瀬貝釦、玉貝釦、蝶貝釦等極めて多きも、最も生産額の多い高瀬貝釦、ドブ貝釦について之を見るに、高瀬貝釦は今から十五、六年以前までは全工程を同一の經營の下に行ひ、當時大なるものは職工七、八十人位を使用し、隨つて工場の敷地百六十坪、建坪百坪を有し、この設備に要する資金は相當多額に上つてゐるが、現在は全工程を行ふものは僅かに二、三戸で、大部分は仕上、撰別又は仕上撰別の外摺場、挽場、穿孔の全部又は一部を行ふのみであるから、大なる工場を建設するの要なく、多くは十坪乃至五、六坪の工場を設け中には住宅の裏又は掛出し三、四坪を職場として作業せるものもある。而して全工程を同一の工程にて行ふものは凡て大阪市を離れ、地價、家賃安き河内方面に居住し、大なるものでも二十五、六坪を行するに止り、十五、六年以前のそれに比して著しき懸隔を示してゐる。

製造者の中で、市外に居住するものは二十四、五戸位である。殆んど敷地、建物共に自己の所有であるが、市内にある多くは家賃二、三十圓乃至五、六十圓を支拂ふてゐるもので自己所有者は全體で三十戸内外である。



工場の建設に要する資金は地代を除いて二、三百圓から千圓位である。

ドブ貝鉗も亦工場の面積は大體高瀬貝鉗の夫れと同様、比較的小なるもの多く大なるもので十五坪内外、小なるものでは單に店輔内にて撰別のみを行ふものもある。而して之等の作業場は殆んど借工場で自己所有のものは極めて少ない。

(ロ) 金屬鉗 作業に火造、鋸吹等を要する關係上小なるものでも十坪位、大なるものでは四、五十坪有するものがある。工場の多くは借工場にして自己所有のものは全體の三分の一位である。

(ハ) ハット鉗 斯業は作業全部を同一經營内にて行ふため、工場の面積は比較的大なるものが多く、建坪百坪を有するもの二戸、六十坪を有するもの三戸、三十坪を有するもの十戸あつて少なるものでも十坪乃至二十坪を有してゐる。工場は多く借工場にして一ヶ月六十圓乃至二、三十圓の家賃を支拂ふてゐるのである。

(ニ) 水牛鉗 水牛鉗は貝鉗と同じく、拔生地を購入して作業するのであるから、工場の面積は大なるもので十五坪内外に過ぎずして多くは居宅を兼ねて四、五坪を有し、その内約半數は自己所有のものである。

(三) 機械器具

(イ) 貝鉗 貝鉗は殆んど加工を專業者に委託して行ふを以て機械器具の購入に要する資金は比較的僅少である。この資金を先づ高瀬貝鉗について見るに、全工程を行ふ一、二戸は別とし、工場の面積十坪乃至五、六坪を有し、仕上及仕上の外摺場、挽場の全部又は一部を行ふもの、機械器具の購入費は動力設備其他を併せて五百圓から千五百圓位である。

ある。

ドブ貝鉗も大體高瀬貝鉗と同様であるが、本品の仕上は共同仕上場にて行ひ得るを以て、加工を各專業者に委託すれば何等の機械設備を要せぬのである。仕上は垢抜きをなすため、ボイラーの据付に比較的多額の資金を要し、或る仕上場の如きは機械の購入費、其他の設備費を合せて五千圓内外を投せられたと云はれてゐる。左に貝鉗製造用機械の種類及一臺の價格を示さう。

		一臺の價格	
ボール盤	足踏	五〇圓	
	動力	四五圓	
ロール	手動	四〇圓	
	動力	六五圓	
摺場機	自動	五五〇圓	
	手動	一五〇—三五〇圓	
面削機	片面	二〇圓	
	自動	五〇—九〇圓	
穿孔機	自動	四五—一八〇圓	
	足踏	八、五〇圓	
彫刻機		五〇圓	
裏穴鉗用機械		八〇圓	
資本及金融			



資本及金融

化車機 木製

一六圓

艶出機

三五圓

脫水機

二五—一五〇圓

其他器具・設備 三〇〇—一、〇〇〇圓

(ロ) 金屬鉋 大規模の製造者にあつてはニッケル鍍金を除いた總ての鍍金を直營にて行ふのみでなく高價なプレス、旋盤又は多數の原型を購入するを以て機械設備に要する資金は割合に大にして、二萬圓以上を投するものもあるが、一面小經營者は鍍金を他に委託し、手工的に作業するが故に二、三千圓にて足り、就中下請業者の如きは原型其他の器具を委託者から供給を受けて製造するを以て僅かに五百圓位の資金にて開業し得らるゝとのことである。金屬鉋の製造に使用さるゝ機械は左の如くである。

プレス	自動式	三五〇—一、〇〇〇圓
	手動式(大)	一五〇—二〇〇圓
	手動式(小)	五〇圓
エキセン		二〇〇圓
ステン		四〇圓
旋盤		三五〇—八〇〇圓
原型		七—二〇圓

鍍金其他設備 八、九〇〇—三、〇〇〇圓

(ハ) ナット鉋 全工程を同一の經營にて行ふが故に、機械器具の購入費比較的多く、凡ての設備費を合せて大なるものは六千圓、小なるものは一千圓位を要する。

挽割機	三〇—四五、六圓
裏線機	一五〇圓
面削機	八五—一〇〇圓
穿孔機	六〇—八〇圓
裏穴機	一五圓
型付機	四〇—七〇圓
原型機	五—一〇圓
原付機	二〇圓
化車機	二〇圓
染色具其他附屬品	四〇〇—二、五〇〇圓
面削機	五五圓
穿孔機	三〇圓
裏穴機	一五圓
資本及金融	

(ニ) 水牛鉋 機械器具の購入費としては動力其他の設備費を合せて大經營のもの二千圓、小經營のもの五百圓位である。



資本及金融	
一 棒切	四五・五〇圓
型付横	三五〇圓
自動	五〇・七〇圓
手動	五・一〇圓
原 型	二四〇・三〇〇圓
捺染器及附属品	二〇圓
化 車 機	五〇・二五〇圓
附 屬 品	

(二) 經營費

經營資金として必要なるものは (一)原料費 (二)加工費 (三)緒經費である。

(一)原料費 原料費は經營資金中最も主要なるもので全生産費の五割乃至八割を占む。されば原料購入方法の巧拙如何は生産費の全體に及ぼす影響は大なるものであるが、この方法は釧の種類と經營の大小とによつて多少異なるものがある。

(イ)貝釧 高瀬貝釧、ドブ貝釧共に經營の大小を問はず多くは受注文の際半ヶ月分乃至一ヶ月分を購入するが、代金は高瀬貝釧にありては現物引換と同時に八割乃至九割を現金で残金は約一週間の後検査済と同時に支拂ふを常とし、ドブ貝釧にありては大なるものは現物引換の六十日サイト手形拂とするも、小なるものは月二回(十五日、月末)勘定の現金拂とする。

(ロ)金屬釧 一ヶ月分位を見越買となすを常とするも、昨今の不況時にあつては原料を貯藏し、資金を固定せしむるもの少なく、僅かに十數日分を當用買とするものが多い。代金は月末現金拂である。

(ハ)ナット釧 大經營者は六ヶ月分位の原料を先物で輸入商を経て直接産地と契約し、代金は現物引換の現金又は六十日サイトの手形にて支拂ふが、小經營者は現金又は掛にて原料商から一ヶ月分位を購入するを常とす。

(ニ)水牛釧 半ヶ月乃至一ヶ月分位の原料を當用買とし、代金は現物引換の六十日サイト手形拂と月末勘定の現金拂とであるが、手形拂の方が多。

(二)加工費 常備職工又は加工專業者に支拂はるゝ資金で原料費に次ぐ主要なものである。共に月二回(十五日、月末)勘定の現金拂とし、加工の難易によつて多少異なる。今生産費に對する原料費、加工費の割合を各種釧別に見ると左の如くである。

(イ) 高瀬貝釧生産費 (千個に付)

	價 格	割 合
原 料 (繰生地)	二九五錢	七八・四六
鹽 取	一二	三・一九
摺 場	八	二・一三
挽 場	二〇	五・三九
穿 孔	一三	三・四五
資本及金融		



資本及金融

仕上	一六	四・二六
臺紙付 (紙代を含む)	一二	三・一九
計	三七六	一〇〇・〇〇

備考 本表の生産費はソロモンの小貝二横生地を材料とし、輸出向一八ライン平物を製造するものとしての實費であるが、實際は加工に當つて割れ又は不良品が多少生ずるから、この原料、加工費に夫々一・〇七を乗じたものが至當であらう。

(ロ) ドブ貝卸生産費 (千個に付)

	價格	割合
原料 (繰生地)	六五錢	五四・六二
摺場	六	五・〇四
挽場	一六	一三・四五
穿孔	一三	一〇・九二
仕上	七	五・八九
臺紙付	一二	一〇・〇八
計	一一九	一〇〇・〇〇

備考 一八ライン平物に對する生産費とす、本品も亦高瀬貝卸と同一の理由にてこの原料、加工費に一・二〇を乗じたものが

至當である。

(ハ) 金屬卸生産費割合(平均)

原料費	六〇・〇〇
加工費	四〇・〇〇
計	一〇〇・〇〇

(ニ) ナット卸生産費割合

原料	七三・一七
挽割	二・四一
裏繰	三・〇五
表挽	三・六六
穿孔	三・〇五
仕上	一四・六三
計	一〇〇・〇〇

備考 南洋産栗ナットを原料とする平物二四ライン普通品

(ホ) 水牛卸生産費 (一哥に付)

資本及金融



資本及金融

	價格	割合
原料 (拔生地)	一六、〇	六五・五七
表裏挽	四、五	一八・四四
穿孔	〇、九	三・六九
仕上	三、〇	一二・三〇
計	二四、四	一〇〇・〇〇

備考 爪を原料とし輸出向深太來、三〇ラインに對する生産費

(三)諸経費 店員に對する給料、諸公課及營業に關する諸経費であるが、この諸経費は殆んど家計費と混同さるゝを以て、區別自ら判然とせぬ。

而して以上の經營資金は釦の種類と經營の大小如何によつて異なるも、小經營者にあつては原料の購入高が少ないのみでなく、製品に仕上げ直ちに現金に代ふる故、固定すること比較的少なく、少ないもので一千圓内外多いものも五、六千圓位に止まるが、大經營者は作業中の原料費、在庫品等に多くの資金を要し且つ釦によつては地方の釦卸商と直取引をなし、相當の賣掛金を有するを以て、その額二萬圓を越ゆるものがある。

釦釦の製造に要する資金は大體釦上の如くであるが、由來斯業は規模の大小を問はず、創業に當つては、前備主から獨立したものが多く、随つて設備資金は釦卸商から援助を受くるものは例外とし、普通創業者の貯蓄中又は親族、

前備主から融通を受け自己の手腕によつて漸次規模を擴張するのである。而して經營資金も高瀬貝釦の如く原料購入に速時に現金を要するものにあつては、前記設備資金と同一の方法によつて資金を得之に充つるも、多くは月一回又は二回勘定の現金拂でめるから、原則として製品の賣却代金から支辨せらる。賣却代金の決済は第五章取引の項に述べし如く釦の種類によつて多少異なるも、全體から見ると現物引換の現金拂と月一回又は二回勘定の現金拂とが多く手形拂は比較的少ない。手形を受取つた製造業者は直ちに現金を必要とせぬものは期日迄手形を保管するも、然らざるときは手形に裏書して原料商に廻し手形として譲渡するか、自己の取引銀行又は同業者に依頼して割引するのである。銀行にて割引するときは普通一錢七厘乃至二錢一厘の日歩であるが其他にては五錢乃至七錢の割引日歩を徴せられてゐる。併し本品は受注文によつて製造するを以て、賣行悪しきときにも在庫品となること比較的少なく随つて投資さるゝことは稀である。而して金融に關し一例を高瀬貝釦について見るに過去に於て原料を手形買としてゐた頃不況時に際してはその支拂期日の切迫となるにつれ、當業者間に相當の賣崩が行はれてゐたが、現時の如き現金取引となつてからはかゝることなく、斯業の不況は金融難よりも寧ろ分業的となつて容易に製造し得るに至つた關係で小經營者が簇出し、價格を競争して出来るだけ安く引き受くるによるものゝ如く、釦工業就中貝釦に對して少額の資金を極めて短期間に融通するは、小經營者の存續を容易にし、却つて業界を一層不況に陥らしむると云ふものもあるこは一面から見ると餘りに極端なる見解であるとも思はれるが、以てよく斯業界の一端を示したもので一考に値すべきである。

資本及金融



### 第九章 同業者團體

同業者團體としては同業組合法による日本貝釦同業組合と同業者の申合せによる團體にして、この申合せの團體は現在七である。以下各團體の沿革並にその現状につき示さう。

(一)日本貝釦同業組合 明治十六年以後製造に従事するもの漸く多くなり、明治三十八年の取引高は四十七萬六千餘圓の巨額に上つた。斯くの如く盛況となるに及び、徒らに多數の同業者をして各自隨意の商行爲に放任せざらんか、粗製濫造して内外市場の聲價を墜すのみならず取引上の信用を失ひ、折角發達し來りたる斯業の前途を害ふ恐れあるに至りしを以て、明治三十九年七月には斯界の有力者であつた繩田久太郎、増田種藏、正垣卯之吉、石川茂吉、石田源次郎、中川眞平、鐘搗仁三郎、藤井兵太郎、長野忠實、佐々木秀太郎、高田音八、宮尾彙造、西原又左衛門、青柳正好の諸氏は大阪府、兵庫縣、岡山縣に亘る製造者と相謀り、茲に重要物産同業組合法による組合の設立に着手し、同年十月遂に別項の如き認可申請書を大阪府及農商務省に提出するに至つたのである。

#### 同業組合發起認可申請

私共今般發起人トナリ明治三十三年法律第三十五號重要物産同業組合法ニ基キ大阪府、兵庫縣、岡山縣ニ於テ貝釦製造業ヲ營ムモノ相一致シ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ日本貝釦同業組合ヲ組織致度候間發起御認可被成下度此段奉願候也

明治三十九年十月 日

發起人住所氏名(省略)

當時の組合地區は前記の如く大阪府、兵庫縣、岡山縣の一府、二縣であつたが、其後岡山縣の同業者は大阪市に移轉せしため、翌四十年には地區變更の手續を了し、四十一年一月十七日には日本貝釦同業組合として愈々認可の指令を受けたのであつた。

然るに斯業の發展は年と共に益々顯著となり、内外の狀勢亦漸く多事ならんとするに際し、組合の趣旨の徹底を期し、その目的を遂行せんには獨り製造者のみの團體にては完全なる効果を奏し得ざることを一般に認められしを以て四十四年には之に販賣業者を加へらるゝに至つた。

其後組合の内容は漸次鞏固となり、實績大に舉りつゝあつたが、茲に端なくも兵庫縣の同業者から同業組合分離問題が起り數回の會合を行ひたる結果遂に兵庫縣下同業者の希望を容れ、大正五年四月九日圓滿に且つ平和の裡に兵庫縣貝釦同業組合として完全に分離された。

かくて爾後は大阪府一圓を地區とし、同業者は互に協力し益々斯業の發展に竭しつゝあり現在の同業者は

第一部 (工) 二三四名

第二部 (商) 一〇五名

計 三三九名

を數へ、昭和四年十一月改選の結果、組長に大谷久三郎氏、副組長に吉崎英三、吉田作太郎の兩氏當選し現在に至

同業者團體



る。  
 (二)大阪ドブ協會、府下のドブ貝釦製造者を一丸とした團體にして、濫賣の防止と優良品の供給と併せて相互の親睦を圖るを目的とし、佐々木彌太郎、藏元久次郎、中西百藏、辻本彌太郎、大阪榮太郎、伊藤永藏、福原恒藏の諸氏が發起人となり同業者二十人と相謀り、大正二年十一月創立されたもので、事務所を日本貝釦同業組合内に置き、現在三十四名の會員を有す。

其後本協會が中心となり同業者間に輸出工業組合法による組合の設立が割され、會合を重ねつゝあつたが昭和四年十一月二十日遂に創立の件は愈々可決され、直ちに認可の申請をなしたりしを以て、近くその指令を受くるに至るべきも、工業組合設立の上はこの協會は自然消滅となるのである。

(三)日本貝釦競賣會 明治四十四年一月の創立にかゝり、同業者間の商品賣買機關の要あると共に一面に於て次第に複雑ならんとする市況の安定を圖るを目的とし、中川徳松、領内虎之助、田村留吉、松原新吉、中谷菊五郎、松尾祐吉、大西宇兵衛、池内乙次郎、淺野松藏の諸氏によつて發起されたのである。而してその計畫は着々擧り同年十月には愈各自の商品を持ち寄り現天王寺區下寺町四丁目松本洋服店階上にて第一回の競賣取引が行はれたが、當時貝釦の海外輸出は漸く業者の數を増して盛んにならんとする直前であり、且つ加工機械に於ても未だ搖籃期を脱した計りで賣買商品も極めて少なく市の日は業者が會合して座談に終る事が屢々であつたが、其後前記諸氏は仲買業者の加入を勧誘し、競賣趣旨の徹底を期する等大に之に盡瘁されしを以て、回を重ねる毎に漸次好況となり、遂に會場の狹隘を訴へ、大正二

年三月には天王寺區俗人町の阿彌陀寺の奥座敷を會場に借り入れ移轉する事となつた。此の時代から競賣の商品は期せずして多數に上り活氣を示すに至つて成績の見るべきものがあつたが、間もなく同寺の都合で當時天王寺東門の中川徳松氏宅へ移轉する事になつた。併し會は益々好況を續けつゝありしに、更に他に別個の競賣會を設ける業者が出て夫れが爲め商業上の圓滑を缺くのみならず經費の二重負擔を苛重される場合も生ぜし爲め、幹事諸氏は之が調停の要を認め、力を竭せし結果圓滿に解決し合同を爲すに至つた。茲に於て會員は六、七十名の多數となり事業の發展と共に愈會場は狹隘を告ぐるに至りしを以て、大正二年十月會場を新に建築し、翌十一月落成式を擧げ、名稱を日本貝釦競賣會と改め、會則を作り青柳正好氏總取締に就任し、十一月九日新組織による初競賣を行ふた。かくて本會は貿易の振興による釦業界の發展と終始し、大正八九年の交には一月の賣買高は三萬圓以上に上つたが、爾後は漸く不振となり、現在は好況時の一割にも達せぬ状態である。

而して本會の地區は大阪市内一圓を以てし、會場は大阪市天王寺區逢阪上之町三六番地に置き、會員は昭和四年末現在二十七名である。競賣日は三日、六日、九日、十三日、十六日、十九日、二十三日、二十六日、二十九日の九回とし、賣渡人より賣買總金額の一步を賦金として本會に納付し、之を以て經常費に充てゝゐる。

(四)誠釦會 大正十一年九月財界の不振により内地向及其他に於ける主にドブ貝釦販賣業者の有志相謀つて、事業不振に對する斯業の安定策を講じ、將來に於ける進歩發達の促進に努むべく、淺野松藏、橘善太郎、中川榮三、米田仙太郎、和泉幸輔、服部豊吉、北本伊三郎、米田光輝の諸氏により相互の親睦と福利とを増進し弊害の矯正を圖る目的を



以て、沿く内地向販賣業者を勧誘し、之れが賛同を得て愈々誠卸會の設立を見るに至り、入會者約四十名、大正十二年二月十八日發會式を舉げ引續き總會を開催し會則の制定決議をなしたものである。

(五)河内裏穴親睦會 本會の前身である大阪裏穴親睦會は裏穴貝卸製造方法の改善、粗製濫造の防止、工賃の協定、信用の向上を圖るを主たる目的とし、大正七年に創立せしもので、初めは大阪府下一圓を地區とし會員三十名を有してゐるが、大正九年以降の世界的不況によつて一時裏穴業者から人造真珠の製造に轉業する傾向があり殆んど解散の状態にあつたが、大正十三、四年頃に至り中河内郡、南河内郡の同業者間に再び同會の必要を認められ、遂に現在の如き名稱を有する團體が生れたので昭和四年末の會員は十六名ある。

(六)大阪商盛會 本會は大阪市、尼ヶ崎市内にある裏穴貝卸業者の團體にして、昭和二年に創立せられ河内親睦會と相並んで斯業の發展に竭しつゝある。現在會員十五名あるが、最近河内裏穴親睦會と合併するの議當業間に漸く顯はるゝに至つた。

(七)日本貝卸繰商會 本會は府下に於て高瀬貝卸半製品即ち繰生地の賣買を業とする同業者の團體にして、溝端正繁、高橋自由吉、森田新太郎、堤義見、久保田松太郎、内山吉太郎、湯川繁太郎の諸氏が發起人となり、價格の統一、優良品の供給、納期の確守を目的とし、大正八年五月に創立されたもので、事務所を日本貝卸同業組合内に置き現在の會員は十人を有す。

現時の高瀬貝卸の繰生地約八割は之等會員の取扱ひにかゝるものであるから、この會員の結束如何は斯業の發展

に影響するところ大なるものがある。

## 第十章 斯業の將來とその改善策

鈕卸工業の創始當時から現在に至るまでの状況は既に述べた如く、その發展の跡著しきものもあるも、翻つて將來の狀態を見るに、卸の種類によつてその軌を一にせざるものが少くない。今各種卸に分ち之を見ると、

(一)貝卸 明治十年頃本市に於て生聲を舉げし貝卸は、天然の海産物を原料とし、之を卸化するに可成熟練せる技工を要するも、幸に本邦人の手工に適し長足の發達をなし、現在は三十餘ヶ國四十餘市場に輸出され、手袋莫大小類に附着して輸出さるゝものを合すると、一ヶ年に七百萬圓以上の輸出額を示し、加奈陀のボーラック商館の如きは我がドブ貝卸を以て亞米利加ミシシッピー品に對抗し、今や米國製品を凌駕せんとするの情勢を示し、内地需要の増加と相俟つて當業者の自覺的活躍によつては、將來益々發展の餘地綽々たるものがある。然るに近時支那上海及其の奥地に於ては數年前より年々多數の從業員を我國に派遣して技術を習得し、大規模の下に貝卸の製造を開始せる一方、最大顧客たりし英米兩國は自國工業保護の目的にて夫々關稅を引上げ、以て本邦製卸の輸入を阻止し、殊に我國は大部分原料を外國に仰ぎ之を加工して再輸出するもので、純然たる國産品にあらず、原料の收得如何により斯業の發展に多大の消長を及ぼすもので、彼の支那の如きドブ貝は自給自足、其他の原料も地理的有利の地位にあれば、若し發奮して我國と比肩し得る商品を製産せんか、競争の結果本邦業者は必然的に商戦上の敗者たるを免れざるを以て、將來實



に憂慮に堪えざるものがある。されば本邦當業者は徒らに價格の競争のみを念頭に置き、不統一なる粗製品を濫賣するを避け、協力一致して生産販賣組織を改め古き歴史を有する斯業の發展を永遠に期せなくてはならない。

斯業の發展に關しては當業者間に種々畫され、現に著々實行されつゝあるものもあるが今高瀬貝釧製造業者及其他の云ふ改善策に付き二、三を見るに、

(イ)原料の共同購入をすること

原料は大正十二年頃までは二三の大手筋の輸入商が産地に支店を有し、大口の見越輸入をなし常にストックを所有して、需要を充たし以て取引の圓滑を圖り、又産地よりも絶えず相當の賣込みもあり、有利の立場にあつたが、近時幾多の原料商續出し、製造者の委託によつて小口にも個々に買付をなすもの多く、爲めに市價は變動し收支相償はざるを以て、遂にこの大手筋輸入商は従來の如き大口輸入を手控へするに至つた。されば産地の輸出商に本邦内地に於ける原料の拂底せるを見越され價格は高騰し、買付上不利の點が少なくないから、この際機關を設けて共同購入の途を講じ、以てこの弊の除去を努むるは蓋し適策にあらざるか。尤も共同購入と云ふも、由來本品は天産物で而も種類が多く産地によつて品質を異にするを以て、分配方法は極めて困難であるから、この點を考慮しなるべく多量に購入して相當の在庫品となすにあらざれば完全なる効果を改め難きも、かくして價格の安定を圖り製造者に供給するは最も肝要なことであらう。

(ロ)價格の協定を圖ること

製造者の濫生と不況の反映とによつて當業者間に價格の競争が激甚となり、口錢率を極度に低減しても他に抽んとしつゝあるが、その口錢率は減少し収入減となるも營業費は依然として遽減されないので、勢ひ販賣數量の増加を企て、多量生産薄利主義の下に廉賣をすることとなる。併し如何に價格を低減するも消費量は之に應じて増大するものでなく、殊に同一の原料を以て製造するものはやはり他の同業者も競争的に價格を引下げるから結局之が却つて通り相場となるのである。然るに輸出業者は如何に製造業者が犠牲を拂ふとも之を恰も當然の事とし出来るだけ安く買はんとするものも少なくないので、その結果として粗製濫造となり、延いて本邦品の聲價を傷ける事となる、されば斯くの如き自由競争は大いに改むると同時に或程度の賣値を協定し、深刻化する不況挽回の策を講じなくてはならぬ。

(ハ)二重拜見制を廢止すること

輸出向は現在製造者が之を撰別し、品質の統一を圖つてゐるに拘らず、輸出商は購入してからその專屬の婦女子をして再検査をし二重の手間を費し、而もこの賃銀は當然製品價格に課せらるゝを以て、それ丈け注文價格は高くなる譯である。加ふるに代金の支拂は多く現物引換と同時に八割、残りは拜見済と云ふ慣習になつて、その殘金は長きは一ヶ月に及び、随つて金融にも影響することが少なくないから、この二重拜見制の廢止に努めることが必要である。尤も之に對しては相當の反對意見があり某釧卸商に就てこの得失を聞くに、現在製造者の行ふ撰別は絶對的のものではない現に輸出検査を行ふてゐるものでさへも、不良品が混入してゐるものもあるとのことで、まして検査制のない釧にあつて如何に製造者が嚴重に撰別するも不良品の混入は到底免れぬ。かゝるものを輸出して、契約の取消又は中止



等があつては蒙むる損害が少なくないから、この制度は製造者が絶対の責任の下にするにあらざる限り存続の外はあ  
るまいと語つた。要するにこの制度の廢止は理想としては當を得たるものであるから製造者は現在より以上製品の撰  
別に力を注ぎ、以てこの制度の廢止に努めなくてはならぬ。

(二) 錐先の寸法を一定し錐の大きさを統一すること、

生地の繰抜に用ひる錐先の寸法が一定せぬため、現在の錐は大きさが統一せず、例へば五分と云ふも四分九厘位のも  
のもあり、之がため穴の位置が一定せぬのでミシンで糸付けするとき針折れが起り能率悪しきとの事で、この錐先寸  
法を一定し以て錐の大きさの統一を圖るは最も肝要である。之に關しては大阪府下錐先製造者は大正三年頃錐先の統  
一及び値段を協定する目的にて日本貝錐先業組合を組織し、爾來漸次業績を擧げつゝあつたが、尙一般の錐先ライ  
ンを統一するの要ありとし、同業者六名は昭和二年九月規約を改め、各自その製品につき嚴重なるライン検査をなし、  
合格品に對しては各自のマーク(商標)及び組合の一定せる證明標を貼付した上販賣し、然らざるものは絶対に販賣し  
得ざることとなしたるを以て、貝錐のラインは今後一層統一さるゝであらう。

其他製品に製造者のマークを付すること、並に共同販賣をなすこと等種々あるも、之等は何れも輸出工業組合の説  
立と相俟つて漸次改善さるゝことと思はれる。

(二) 金屬釦 輸出は近來最大需要國である支那に於ける軍服制度の改正及自國製品の勃興によつて著しく減少し、隨つ  
て製造者も内地向に轉業するの悲境にあるが、内地向は從來學生用として水牛骨釦に代つて櫻釦が代用さるゝに至り

需要は毎年漸次増加の傾向にあり、而も本品は夙に先覺者が種々形狀並に製造方法に關し改善を加へ、大正十二年の  
震災以前には、大阪に於て製造し得ず殆んど東京の獨占であつた上消鍍金の始き現在に於ては容易に之をなし得るに  
至つたことは多とすべきであるが尙改良を要すべき點が少なくない。今之に關し當業者の意見を叩くにその第一は品  
種の改良である。現在大部分使用せらるゝ共裏釦は、その銲接に當り瓦斯及び鐵針金等の消耗品其他比較的多くの勞  
力を要し且つ作業上加熱の程度如何によつて廢物を生じ易いが、之を堅牢式或は返し釦(沿革参照)に改むる時はこの  
缺點なく且つ不熟練工にても容易に従事することを得るのみでなく、機械力によつて接合することを得るを以て、工  
賃の節減と能率を増進し、尙共裏釦の如く瓦斯を以て銲接せぬため、耐久力は約三割方よく、隨つてそれ丈薄物の地  
金でも事足り極めて經濟的である。併し共裏釦にあつは餘り薄き地金を使用するときは銲接を行ひ難く、各製造者共  
にその厚さを一定してゐるが、堅牢式或は返し釦にあつては如何に薄くとも接合作業に差支なきを以て出来るだけの  
薄きものを用ひて價格を競争し、釦の聲價を失墜するの一因ともなるが、この點は當業者の誠意に俟つて容易に除去  
し得るのである。

その第二は原型の融通である、原型は釦製造者、釦卸商又は需要者之を所有し而も一學校に對する原型を二、三名  
のものが所有し互に注文を分割し、又は之を所有するも全く使用せぬものもあるが、要するに一つの原型で足りるも  
のを各自に準備するが如きは極めて不經濟たるを免れぬ。されば數名相共同し之が供給機關を設け、以て相互に融通  
し合はんか、原型の新調費を省くのみでなく資金の固定を低減し得るのである。この外大さ並に型の單純化等も擧げ



らるゝが以上は何れも斯業改善の一方法として一考とすべきである。

(三) ナット釦 大正二年頃には一ヶ年約十萬圓の輸入額を示し、爾後益々増加の傾向にあつた本品は大正三年以來本邦に於ける斯業の發達によつてよく輸入を防いだのみでなく進んで海外にまで輸出さるゝに至り、將來有望なる商品の一となつたが、最近小資本の製造者簇出せしめたため種々の弊害が醸成された。即ち (イ) 價格を競争して製品の賣崩しをなすこと (ロ) 金融上原料を充分に乾燥せぬ内に仕上げ、現金に代ふため製品にカビが生ずること (ハ) 何等の素養のないものが染色に従事するを以て變色するものがあること等で、幸ひ外國品の輸入に際しては從價三割の輸入税を課し、内地市場に於ては本邦品は相當に保護されてゐるが、之を輸出して海外市場に於て外國品と角逐するには以上の諸點に鑑みて生産組織の改善、品質の向上を圖することは尤も肝要である。

(四) 水牛釦 歐洲大戰後外國製アイボリナット釦の進出により印度、南洋其他歐米方面の輸出は激減せしも、主要華客たる支那方面の需要は依然として變化なく寧ろ數量に於ては漸次増加の傾向にある。内地向も又一時本邦製ナット釦のために打撃を受け製造業者も之に轉業するものも顯はれたが、最近に至り技術大いに進み安物は却つて之を壓倒するの狀態を示し、殊にナット釦に比し約四割も定價であるから、この値開が存する間は需要の減少を見るが如きことはなからう。

(五) カラー・カウス釦 本品は内地向にあつては逐年需要を増し、從來高級向としては外國品を使用せしものもあつたが現今に於ては外國品と何等の遜色なきものが製造され、一部好奇的の人を除く外は殆んど本邦品を使用し、益々有望

品となつた。

輸出向は大正六年から八、九年までは支那、印度、南洋は云ふに及ばず、遠く土耳其方面にまで輸出を見たが、戦後安價な獨逸品が盛んに出廻りたるを以て、本邦品は之に壓倒され最近著しく不振である。併し本邦品は英、米品に比しては品質稍劣るところあるも、價格安く獨逸品に比しては價格割高なるも、品質大に優り居れば、今後技術と生産組織の改善を圖り、進んで本邦品の宣傳と賣込とを努むるに於ては、單に東洋市場のみに止らず歐米市場への販路開拓もさまで難事にあらざると一般に觀察せられてゐる。

(六) 磁釦 製造に當つては型が專賣特許である關係で、現在本邦に於ては日本釦會社の一社あるのみであるが、競争國としては獨逸に二工場、佛國に一工場、伊國に一工場、チエツコ・スロバキアに一工場ある。幸ひ本邦品は價格の安いと云ふ唯一の武器を以てよく之等先進國の製品に對抗しつゝあるが、將來彼の地に於て安價に供給さるゝ曉には本邦品の打撃は決して少なしとせず、當業者はこの點に鑑み、銳意之が改善に努めたる結果品質に於ては殆んど彼と遜色のなきものが製造さるゝに至つたことは獎とすべきであるが、種々改善を要すべき點が残されてゐるから、今後一層之が研究を遂げ、販路の開拓に努むるを要するや贅言を要せぬところである。

(七) 骨釦 本邦内地に於てはドブ貝釦、輸出向にあつては割安なる外國品の出廻りにより、内外共に需要は激減し、殊に斯業は大和地方の農家の副業に之を行ふもの漸次増加するに至りしを以て、この際大なる努力を拂ひ品質生産組織を改善し、生産費の低減を圖るにあらざれば本府の斯業は益々衰微するの外はなからう。



(八)硝子釦 本品は(イ)製造方法が簡單であること(ロ)美術的の製作に適すること(ハ)主要原料たる石粉が程遠からぬ所から産出され安價に之を購入し得ること(ニ)耐久力に乏しいと云ふ最初の懸念が本品の使用によつて裏切られた等のため將來益々有望なるは疑を容れぬが、外國品に比して光澤なく何となく鈍味を帯びてゐるものがあるとの事で、この點は尙研究を要すべきである。斯業の發展策として當業者の語るところによると、現在の製造者は僅か三戸であるため生産額少なく随つて本品の特質が一般に普及されぬが、相當資力ある問屋又は研究家が之を援助し自ら原型を購入して希望者に貸與し、以て製造の開始を容易ならしめ、多くの實物見本を製造して宣傳大いに努めなば、斯せずして益々發展するに至るであらうと。而して本品に對し特に注意すべきは之を取扱ふものが、眼前の利に迷ひ本邦品であるのに舶來品と稱して販賣してゐるものがあるとのこと、果して然りとせば本邦品の發展を阻害することが大であるから大いに慎むべきである。

(九)革釦 本品は從來裏銀釦の一種で販路は支那のみであつたが最近に至つて内地向として裏穴、平物、四ツ穴釦をも製造し、殊に本品の原料は屑革を使用する關係にて、價額はアイボリナット釦に比して約四割方も安いとの事で將來は内外共に相當の需要を増すであらう。而して本品も近時幾多の缺點が改良され益々その實績を挙げつゝあるも、尙當業者の研究に俟つべきもの多く今後一層の努力が肝要である。

本邦鈕釦は既に述べたる如く尙幾多の改善事項あるを以て、各當業者は種々之が對策を講じつゝあり、即ち昭和二年には大阪府、和歌山縣、奈良縣、岡山縣、徳島縣下の高瀬貝釦製造者を一丸とし、輸向製品の検査、原料材料の

共同購入、製品の共同販賣、共同加工場の設置補助研究の施設等をなすを目的として日本貝釦輸出工業組合設立運動の如き、越えて昨四年には大阪府、兵庫縣下の高瀬貝釦製造者三十名の賣値、生地を買入、利益の協定をなすを目的として日本製釦協會設立運動の如き、又同年には大阪府下のドブ貝釦製造者を一丸とする日本ドブ貝釦輸出工業組合設立運動の如き、一として之に關せぬものはない。而して右高瀬貝釦の二者は同業者の結束するところとならず何れも不成立に終つたが、ドブ貝釦は昨四年十一月二十日創立總會を了し、同十二月二十五日認可の申請をなしたりしを以て近く指令を受くべきも、今同組合の設立に關し當業者の成したる斯業の缺陷及之が矯正策に對する意見書を見るに、

(一)企業組織の規模狭少 複雑なる營業であるのみでなく、原動力たる従業員は思想低級にして、業務に對する責任觀念極めて薄弱なるが爲、偷安懈怠を取締るべき監督者の必要を感じ尠なからぬ冗費を要する結果、大規模的工場は永續せず、自然的相互扶助の精神に富める家族工業に轉化す。されど此等中、小業者が原料の供給及び共同販賣所施設の下に一丸となりて相結末せば却つて豫期の好成绩を收め得るのである。

(二)金融上の不便 鈕釦には公定相場なく各自個々別々の等級を定め、經濟の原則たる需要供給によつて大勢を支配するものでなくして、金融上の都合によつて投賣的行爲を敢て爲すが故に、銀行業者は不安に驅られて擔保品として取扱はない。然れ共工業組合法に準據して検査所を設けて製品の検査を行ひ、價格の公定團體的に資金の調達を交渉すれば銀行業者も又應諾するの可能性がある。



(山) 販賣組織機關の不備 小資本なるが故に外國の注文を直接に引受難く、勢ひ不當の利得を搾取されつゝあることを感知し乍ら之を甘受せざるべからざる状態にあり、故に共同販賣所を設けなば自然第三者を介せずして直接外國と商取引を開始する事を得るのである。

(四) 競争意識と粗製濫賣 資力乏しく常に生活の脅威を受くるため、豫想せる相場の現出期まで製品を持続し得ず、不利益と知りつゝ仲介人の指定値段に甘んじ競争賣を試み、又は故意に粗悪品を濫賣して之が損失の幾分かを補填せんとする。之等の弊害は工業組合の法規を活用すれば矯正すること易々たりと信ずる。

(五) 商敵の現出 原料及仲介者は自己を制せんがために、内地に比して定價に生産し得る支那に着眼して投資すると同期に貝釦加工の方法を教授指導したるも、今日の艶出等特殊の化學的技術を要する貝釦製造の智識極めて低級にして我國製品に追従すること能はず、故にこの際工業組合を設立して技術を奨励すると同時に業者互に結束して原料たる貝殻及繰生地輸入方法を改め、以て支那を利用せば、將來日本ドブ貝釦の發展尙一層洋々たるを期し得るのである。

(六) 型番の多種多様 日本ドブ貝釦は實用的にして裝飾品にあらず、工業組合法を適用して型番の單純化を期せば從來の冗費を省き得るが故に、製品は必然的に低廉且つ統一せるものとなり、延いて能率は増進するのである。

(七) 原料の共同購入 原料の共同購入を實現すれば原料商及仲介者の存在を認めず直接産地より輸入して各自製産能力に應じて分配をなす故、自然的に低廉なる原料を使用し、優良品を製産し得ることとなる。

にして以上は何れも同組合の設立を必要としたる所以を明らかに示せるものである。而してその目的とするところは (一) 原料生地及機具の共同購入 (二) 製品の共同仕上場設置 (三) 製品の共同検査 (四) 製品の共同販賣 (五) 補助研究の施設等にして、認可の上は眼前に横はれる諸問題を解決し、大にしては國益の伸暢を期して、小にしては同業者の福利増進を圖るべく、一般に將來を期待されてゐる。



附錄

主なる製造販賣業者

(イ) 貝 卸

主要製品	氏名	住	所	電話番号
高瀬貝	伊藤和吉	天王寺區勝山通一丁目	天王寺	七二八
高瀬貝	伊藤永藏	東區南生野町三丁目	天王寺	二三〇二
高瀬貝	伊勢村竹次郎	西區島津町	天王寺	一二五三
高瀬貝	岩岡幸一	天王寺區大道一丁目	天王寺	二〇九四
高瀬貝	井藤辰次郎	南河内郡志紀村大字弓削	天王寺	一四二七
高瀬貝	戸川忠治	天王寺區大道一丁目	天王寺	一四二七
高瀬貝	大谷久三郎	天王寺區大道一丁目	天王寺	一四二七
高瀬貝	岡井善三郎	天王寺區堀越町	天王寺	一四二七
高瀬貝	荻田佐太郎	浪速區大國町五丁目	天王寺	一四二七
高瀬貝	大阪榮太郎	港區泉尾中通一丁目	天王寺	一四二七

高瀬貝	尾崎清三郎	天王寺區國分町	天王寺	五六七
高瀬貝	河端林三郎	港區三軒家東一丁目	天王寺	四三五六
高瀬貝	勝山留吉	南河内郡志紀村大字弓削	天王寺	二〇三九
高瀬貝	勝山甚三	南河内郡志紀村大字弓削	天王寺	二〇三九
高瀬貝	吉田作太郎	天王寺區樵寺町	天王寺	二〇三九
高瀬貝	吉田文治郎	東區龍造寺町	天王寺	二〇三九
高瀬貝	立花勘藏	天王寺區上沙六丁目	天王寺	二〇三九
高瀬貝	高田勘藏	天王寺區大道四丁目	天王寺	二〇三九
高瀬貝	高田兵太郎	天王寺區上綿屋町	天王寺	二〇三九
高瀬貝	田坪浅次郎	南河内郡柏原町大字本郷	天王寺	二〇三九
高瀬貝	田坪浅次郎	南河内郡柏原町大字本郷	天王寺	二〇三九
高瀬貝	谷口作太郎	中河内郡堅下村字平野	天王寺	二〇三九
高瀬貝	土橋三藏	天王寺區勝山通一丁目	天王寺	二〇三九
高瀬貝	辻本彌太郎	港區大正通六丁目	天王寺	二〇三九
高瀬貝	辻本五郎	中河内郡楠根村大字稻田	天王寺	二〇三九
高瀬貝	辻野秀松	南河内郡柏原町字柏原	天王寺	二〇三九
高瀬貝	内地下貝	北區太融寺町	天王寺	二〇三九
高瀬貝	内地下貝	港區泉尾中通一丁目	天王寺	二〇三九



石見敬三	石見準吉	石見大藏
東區谷町三丁目	東區南新町二丁目	東區鎗屋町一丁目
東 三八〇一	東 三九六八	東 五六一

(口) 金屬卸

高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸
杉林龍太郎	菅野利三郎	森安太郎	森本好則	平田商店	宮野留吉	宮野佐吉	宮越殿吉	三島眞三	
泉北郡八田莊村字家原	浪速區惠美須町二丁目	東成區北生野町二丁目	東成區勝山通六丁目	泉北郡濱寺下	中河內郡楠根村字稻田	中河內郡楠根村字稻田	天王寺區勝山通三丁目	天王寺區勝山通一丁目	
戎 三三五四	天王寺 二二三八	天王寺 二六八七	濱寺 二		稻田 四		天王寺 六七六		

蝶貝高瀬貝卸	下ア貝卸	下ア貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	玉貝卸	高瀬貝卸	下ア貝卸	高瀬貝卸	高瀬貝卸	下ア貝卸	高瀬貝卸	下ア貝卸	廣瀬貝卸
北島常太郎	櫻井助太郎	佐々木彌太郎	定森喜一郎	澤田榮治郎	佐賀元太郎	赤松増藏	藤井本正春	榎谷商店	前島淺治郎	增田字三郎	松井檜三郎	山上多一郎	山内末勝	野口政吉	中村幸一	中本政吉	
南區瓦屋町三番丁	浪速區惠美須三丁目	浪速區惠美須三丁目	天王寺區上汐町六丁目	東成區中道町	東區八丁東寺町	東區清水谷東ノ町	天王寺區大道一丁目	南河內郡國分村字國分	中河內郡楠根村字稻田	西成區今宮町西野	天王寺區大道一丁目	住吉區桑津町	天王寺區寺田町	天王寺區逢阪上ノ町	港區三軒家町二丁目	港區泉尾竹ノ町一丁目	
南 三〇七四					南 八三三六	東 一三六	南 二五六七	柏原 一六三	稻田 六		天王寺 一七四四	天王寺 一七五六	天王寺 一二〇八		櫻川 一七二六		



附錄

磯崎梅太郎  
西川重太郎  
金丸澤之助  
支番彌一郎  
宮川末雄

東成區鳴野町  
東區兩替町一丁目  
東區内本町二丁目  
東區東雲町三丁目  
東區内本町二丁目

東 四七一六  
東 三九〇五  
東 二六一  
東 四〇八七  
東 五五九

(ハ) アイボリナット鉦

萩原傳次郎  
庭植幸次郎  
浜速鉦工業所  
上野亟太郎  
嵯峨工場  
新開喜一郎

中河内郡若江村大字若江北  
堺市車ノ町東四丁  
中河内郡八尾町字小阪合  
堺市向陽町  
住吉區遠里小野町  
堺市北半町

住吉 二七六二  
一九八四

(ニ) 水牛鉦

附錄

貝堀七太郎  
吉川恭一郎  
高浦真三  
辻井常次郎  
上田菊次郎  
松田音松  
松居仙次郎  
後藤藤隆吉  
阪本由太郎  
澤田兄弟商會  
三好鉦店  
島野伊一郎  
城居嘉一良  
杉山徳次郎  
田中組三郎  
上野孫治郎  
栗山商店

中河内郡三野郷村字上ノ島  
中河内郡布施町東足代  
中河内郡三野郷村字上ノ島  
中河内郡小阪町字中小阪  
天王寺區細工谷町  
東成區北生野町一丁目  
東成區猪飼野町  
中河内郡三野郷村字上ノ島  
中河内郡英田村  
東成區鶴橋北之町二丁目  
東成區猪飼野町  
東成區片江町  
中河内郡玉川村瓜生堂  
中河内郡巽村大地  
中河内郡若江村若江北  
中河内郡小阪町中小阪

小阪 二二八  
南 七三一八  
天王寺 二五四六  
天王寺 二二九四  
小阪 一三二



丸岡 增次  
松本 留次郎  
北口 博造  
柚木 元次郎

東成區中道町  
東成區片江町  
中河內郡若江村若江北  
中河內郡若江村上若江

(ホ) カラー・カウス釦

小野 興一郎  
甘利 繁太郎

東成區中道町  
南區內安堂寺町一丁目

(ハ) 磁釦

日本釦株式會社

西淀川區浦江町南二丁目

(ト) 骨釦

鷹塚 音吉  
上田 裕吉  
澤田 捨吉  
森田 國藏

南區東賑町  
東成區中本町  
東成區西今里町  
東成區中本町

東 東  
一三三三三  
一三三三三

土佐堀 二五四八

南 五九四五  
東 三七二八

正誤 九四頁九行 大國町三丁目は同五丁目、又同頁十一行 泉尾中通三丁目は同一丁目に訂正

(チ) 硝子釦

小野 菊男  
垂水 榮藏  
北口 久吉

豐能郡豐中町  
西成區玉出本町三丁目  
東成區中道町

岡町 六一六

南 五九〇三

(リ) 革釦

戸田 富藏

浪速區新川三丁目

戎 五〇一八



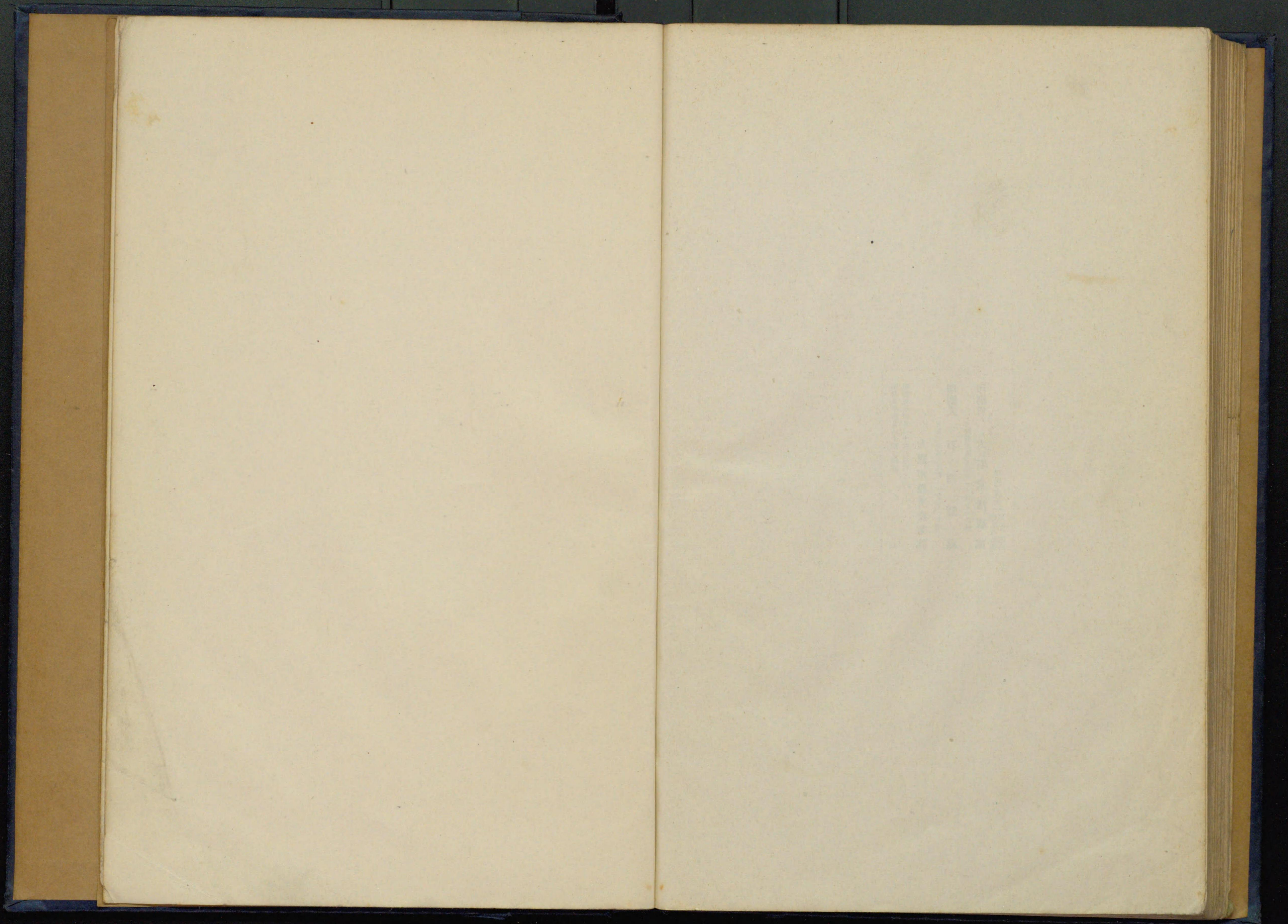
昭和五年四月二十四日印刷  
 昭和五年四月二十六日發行

大阪市役所産業部  
 大阪市北區玉江町一丁目十一番地  
 印刷人 石西豐藏

印刷所 大石堂活版部  
 大阪市北區玉江町一丁目十一番地  
 電話土佐堀(四三)八七番  
 (三九)五番

<p>(一) 部 千 取</p>	<p>(二) 部 千 取</p>	<p>(三) 部 千 取</p>	<p>(四) 部 千 取</p>	<p>(五) 部 千 取</p>	<p>(六) 部 千 取</p>	<p>(七) 部 千 取</p>	<p>(八) 部 千 取</p>	<p>(九) 部 千 取</p>	<p>(十) 部 千 取</p>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------







588  
78



241



588  
78



